

睡眠姦CG集

眠っている 教え子を...

もし、自分の教え子がいつでもどこでも
スッと眠りに落ちてしまう不思議な体質で
むちむちのエッチな体をしていたら...♥♥♥

基本CG 15枚 + α 本編 166枚

©怪しいサイハイ音楽隊

俺は小林一郎（33）
公立の学校で働いている教師。

生徒からは特に人気があるわけでもなく、とにかく普通。
ませた生徒たちに変に突っ掛かられることもなく
いい立ち位置で教師をやらせてもらっている。

そんなTHE・普通な俺も
一応自分のクラスのことには少し気にかけていて
よく生徒たちの相談を受けたりもしていた。

その中でも、特に――



「小林先生」

「おお、竹内か。どうした？」

クワッ

クワッ

クワッ

クワッ

グワッ

グワッ

俺のクラスの生徒 『竹内 瑛子』

どうしてかは分からないが俺に憧れて教師を目指してらるらしく最近には特に親密な関係の生徒だ。

ニッ

ニッ

親密といっても決して恋愛感情などではなく、あくまでも生徒と教師という立場での話。

昔、この学校でも生徒に手を出して懲戒免職になった教師がいたりもしたし…そのあたりはしっかりわきまえている。

クソッ

しゅっ

それはそうと、この彼女について。

ハハ

ハハ

クワイ

クワイ

グイッ

むっちりした巨乳なことを除いては
とても立派な優等生なのだが…

グイッ



いつでも眠ってしまふことで有名な、
ちよっと困った生徒だった。

「今日も放課後に勉強教えてもらいたいんですけど…」

「もちろんそれはいいんだけど。お前また授業で居眠りしたらしいいな？」

「あ、はら…でもその分は家で予習してますよー！」

「ん」

「ん」

クイッ

クイッ

グイッ

グイッ



「俺はお前が家でも努力してるのを知ってるから居眠りも許容してるけど…職員室でちよっと悪い噂になってるから気を付けるよ?」

「ハハ」

「ハハ」

「えへへ…はい。でも先生が私のことを分かってくれてたら十分ですよ」

「はあ…。お前は普段の態度は真面目だし成績自体も悪くない。授業中に起きてるだけでも他の教師からの評価も上がるぞ?」

「クワイッ」

「クワイッ」

「グビッ」

「グビッ」

「うっ…私もできれば起きていたいんです…
どうしても睡魔に勝てなくて…。
でも、絶対に志望校に受かって
先生みたいな生徒思いの教師になりますからね！」

グビッ

ハハ

ハハ

クビッ

クビッ

クビッ

「ははは…そんなこと言ってくれるのお前だけだよ。
まあ、頑張りすぎないように頑張れよ」

嘘か本当かはともかく、
自分のような教師になりたいと言われて
悪い気持ちになるはずがない。

だから彼女のごとは他の生徒よりも気にかけていたし
志望校に受かって夢を叶えてほしいと、
純粋な気持ちで思っていた。

ハハ

ハハ

クワイ
クワイ

クワイ
クワイ

グググ
グググ

しゅっ
しゅっ

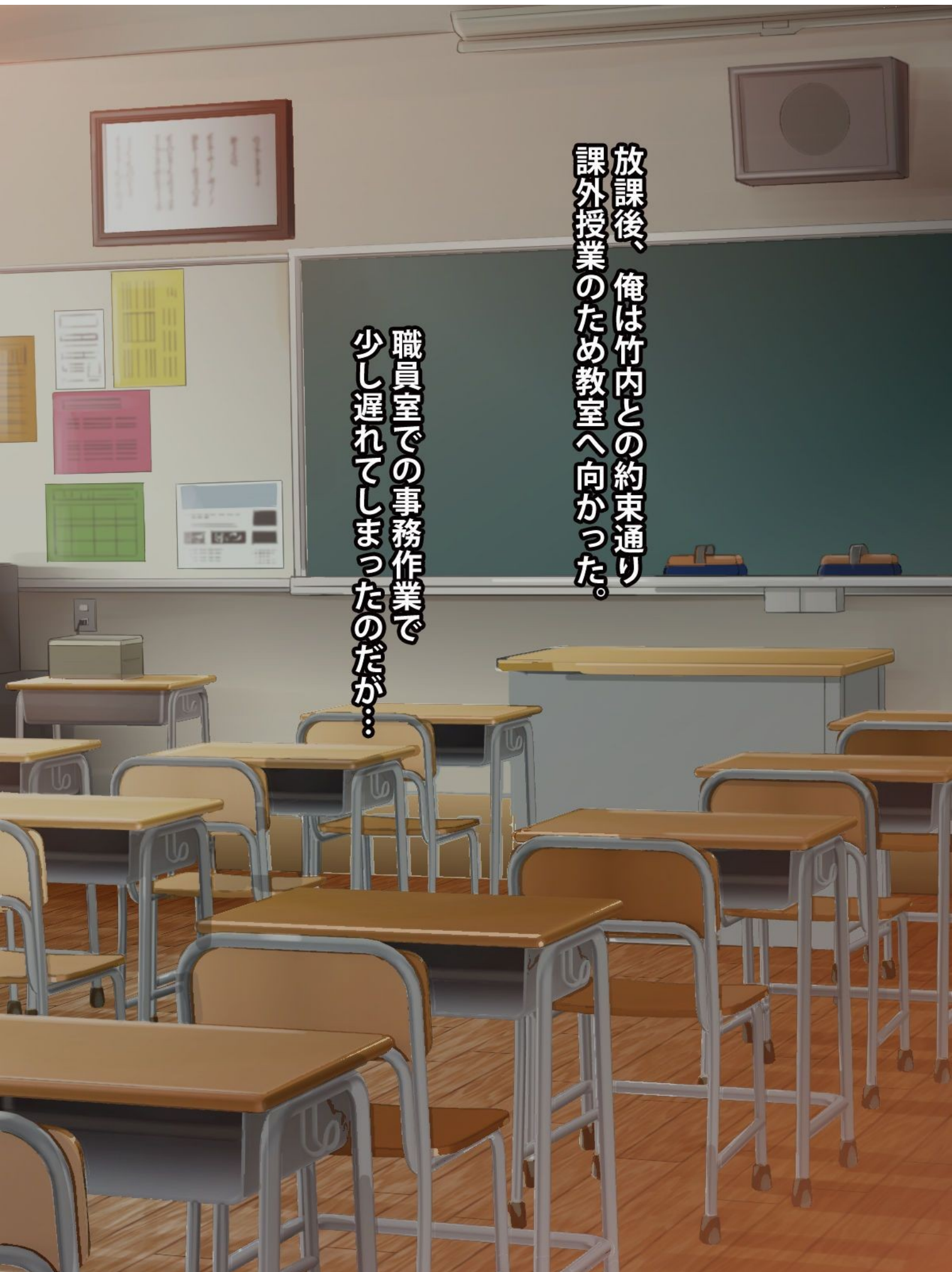


彼女に…

あんなことをしてしまっただけは…。

放課後、俺は竹内との約束通り
課外授業のため教室へ向かった。

職員室での事務作業で
少し遅れてしまったのだが…



「ああ…やっぱり寝てる…」

彼女はぐっすりど、寝息を立てて眠っていた。

おはね…

すずま…

「おい、勉強はいいのーか？
このまま寝てるなら職員室に戻るぞー？」

「すず…すず…」

(はあ…まったく…仕方ないやつだ。
このまま放っておくのも可哀想だし
起きるまで少し待ってやるか…)

おはね…

おはね…



「…気持ちよそでっくに眠るなあ…
そりゃこんな本気で居眠りされたり
真剣に授業やってる教師は怒るわ…」

「おはあ…」

「すま…」

「でも本当は真面目でいい子なんだから…
担任の俺はこいつを守ってやらないとな」

「…どうしても…」

「おはあ…」

「おはあ…」

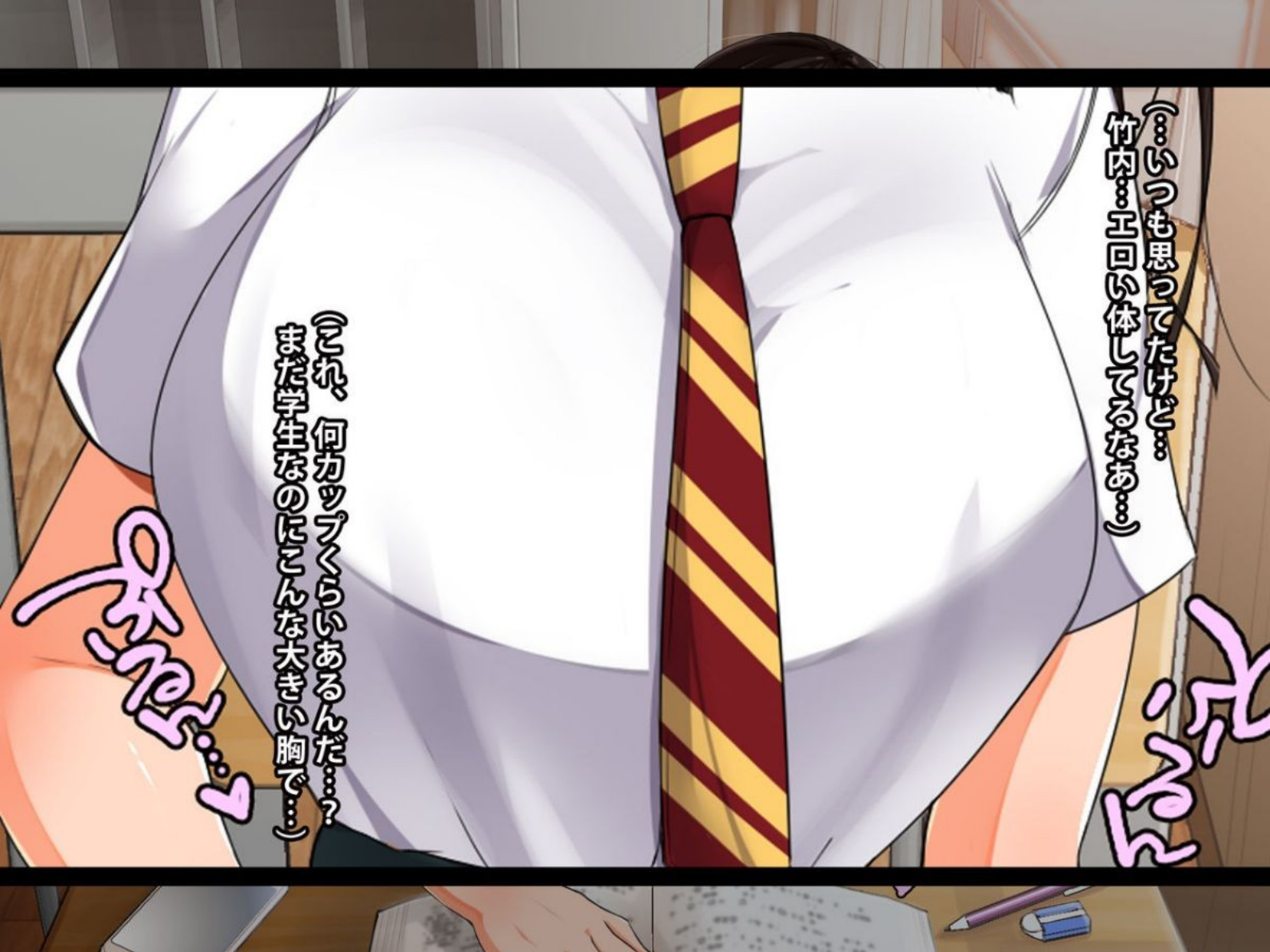


(…もしも思ってた方が…
竹内…上回ら体して…)
(…おまぬ…)

(これ、何かツブくらいあるんだ…?
まだ学生なのにこんな大きい胸で…)

おまぬ…?

おまぬ



い、いかにいかに！俺は何を考えているんだ！
大切な生徒をそんな目で見てはいけない……！

おぼろ……

すま……

（ぞつぞつと起こして勉強に付き合ってやるか。
起きるか分からないけど揺すってみるか）

「おい、そろそろ起きろ……わっ！」

（しまった！足がもつれて……っ！）

おぼろ……

おぼろ……







「ううあああああ.....
おちろじやならうーすまじり.....」

たずね...

たずね...

「たずね...」

「.....」

たずね...

たずね...

「…仕内ッ」

（…ぐぐっすり眠ってる…!!
よかったー！マジで人生終わるところだった…）

おはね…

おはね…

すまね…

おはね…

（まあ起きちゃったとしても
言い訳すれば分かってくれるとは思っけ…）

（ふっ…冷静になろう、冷静に…）



(柔らかかったなあ...)

(すげえ柔らかかった...)

おは...

すま...

(...全然起きる気配ないな...)

(そういえば、どんなに居眠りに厳しい教師でも彼女のことは授業が終わるまで放っておくらしい...)

(...本当に起きないのか...?)

おは...?

おは...?



（…もう一回触りたいな…）

（…そ、そつだ、竹内なら
言い訳すれば分かってくれる気がする…）

おれだ…

すま…

（俺のことをやけに好いている感じだし…）

「…お前なら分かってくれるよな…」

おれだ…

おれだ…



今思えば、この時から
俺はおかしくなってしまうたんだと思う。

おぼろ...

おぼろ...

おぼろ...

おぼろ...





「グラビアとかAVでしか見たことならくらから...!」
しかも揉むたびに手に吸い付くし...!
こんなおっぱいをただの学生が...
しかも俺の教え子が持っているなんて...!」

おっぱい...

すま...

「奇跡だ...!
きっと俺が真面目に教師をやってきたから
神様が褒美をくれたんだ...!」

おっぱい...

おっぱい...

おっぱい...

おっぱい...

おっぱい

おっぱい





《全然起きないし...!》

《揉んでも揉んでも全然起きる気配がな...!》

ふふ...

すず...

「今のうちに一生分おっぱい揉んでおこう...!」

(あ〜...気持ちいい〜...最高...)

ふふ...

ふふ...

ん...ん...

ん...

ん

ん



「ふふふ...ははは...」

(...ふふふ...)

ふふふ...

ははは...

(...ふふふ...ははは...)

ふふふ...

ふふふ...

ははは...

ははは...

ははは...

ははは

ははは

「え、エロっ……下半身がムテムテしてるとは思ってたけど想像以上にムテムテじゃないか……！」

110
カーア…♡

クマッ

クマッ

「(白いパンツも清楚な感じで…欲望を掻き立てる……)」

「…はは…す、すっくら体だ…」

(おっ、結構ヤバい...
いや竹内なら分かるわ...)

アハハ

アハハ

(あ、おっ...おっ...
...ちよつとだけ触っちゃおうか...
さすがにそれは起きるか...?)

(あれ...なんか、
ちよつと触りたくな...)

110
アハハ...♡

「……」

「ま、まさか俺が胸を触ったから……?!
え?!女の子って寝てても濡れるの?!」

「(気になる…濡れるのか…)」

アハハ

ハハハ

「(…これは純粋な興味だ…)」

「決して性的な意味ではなく…」

「そうだな…保健体育の勉強ってことで…」

「起きた時の言い訳はこれだ…!」

アハハ

「そういうわけだから…」

「…ちよっと触るからな…」

「(お、お、お…)」





「うわ〜……♡ここも柔らかい……♡
こんな柔らかがおま○こだったら
ち○こ挿れるたびに擦れて
めちゃくちや気持ちいいだろうなあ……♡」

「(エ回いなあ、エ回いよ竹内……！
普段見えてないところもこんなにエ回いなんて
どうなってんだよお前の体は……！)」

「……お〜」

「Piercing」
「Piercing」
「いっ」
「いっ」



ぬ、濡れてきた?!?!?!」

ニャーニャーニャー

じわあ...♡♡♡♡♡

110
17.

んん

んんん

んん

んん

んん

「す、すげえ……！」

（おいおいおいー！本当に濡れてきたぞ?!
女の子は寝ても感じるんだ！やったぜ！）

ズン

ア……♡

ア……♡

（しかもまだ全然起きなさそうだし……！
これは……！）

「……おん、か……んんん」





俺はズボンを脱いで…

彼女を机の上に仰向けで寝かせた…。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「はあ、はあ、はあ…」

(よかった…！動かしたけどまだ寝てる…！)

「いびき〜…」

「竹内、寝てるんだよな？！
聞こえてないよな？！」

「い、今からすることは
起きてても絶対に誰にも言わないでくれよ…！」



そして俺は…今にも暴発しそうなガチガチのち○こを
教え子の柔らかがおま○こに狙いを定めて…

「はぁ〜…」

「さ、さくぞ…！挿れるぞ…っ！」





「おっ...おっ...おっ...おっ...」

♡...♡

フクッ

フクッ

ズブッ♡♡♡♡♡

フクッ

フクッ

フクッ

フクッ...

フクッ

フクッ

フクッ

「んんっ…♡♡」

(な、なんだこのま◯◯…♡
すげえ…っ♡♡♡)

(どんなオナホよりも気持ちいい…♡♡
学生のまま◯◯ってこんな気持ちいいのがよ…!♡)

(中がとるとろに濡れてて…♡
ぷりぷりしてて、締めりがあっ…♡
ち◯◯でとろとろ絡みついてくる…っ♡♡♡)



「竹内っ…♡竹内っ…♡」

（全っつっつっつ然起きない…!!）

「♡…♡♡♡」

（うわああ最高だあ…!!
神様ありがとう…!!）

（とろとろ…♡
中が全部とろとろすぎっ…♡♡♡）



しかし、最高のおま○こを味わう余裕はなく…
教え子を犯している背徳感で大興奮…
すぐに射精しそうになって…

「……」

「さ、さっしゅん…あ、あんなに…」

「…中に出した方が外に出すよりも気付かないか…？」

「そ、そうだ！そうだよな…！」

「中に出した方がバレないはずだ…！よし…！」



「な、中に出すぞ…っ！
全部受け取れよ…っ！」

「ふ…っ♡」

フクッ

フクッ

…♡

フクッ

フクッ

フクッ

フクッ…

フクッ

「ふ、ふ…っ♡」
「ふ…っ♡」

フクッ

フクッ

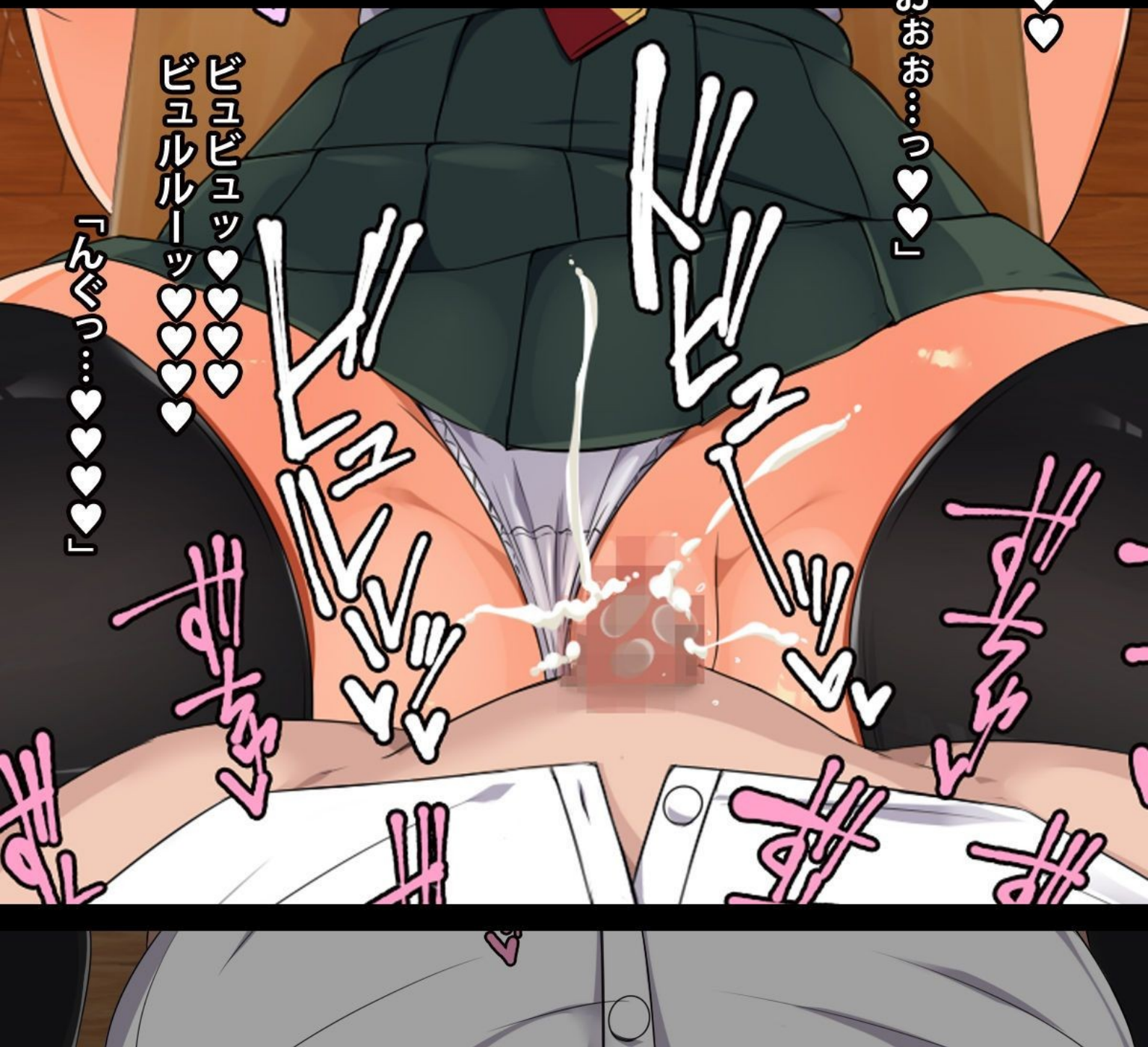
フクッ

フクッ

フクッ

フクッ







「ゴキョウゴキョウゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

「ゴキョウ」

(どうも、どうも、どうも、どうも、どうも……！)
俺は信頼してくれてらる生徒を……っ！……！)

……っ……

……っ……

……っ……

……っ……

……っ……

……っ……

……っ……

(このまま俺は刑務所に行くのか……？！)
いやだ……いやだ……！……！捕まりたくない……！……！)

(落ち着け……！……！このまま放置なんてしたら即終了だ……！)
と、とにかくま○こだ……！ま○こを拭かないと……！……！)

……っ……

……っ……

焦って乱暴に拭いてしまったが
やはり竹内は起きなかった。

そして…時間にして十分くらい経った頃だろうか？

鬱々としている俺の気なんてお構いなしに
彼女はゆっくりと目を覚ました。



「……」

「……」

「……」

「……」

「んあ……?……あ！」

「せ、先生！すみません！」

「……った、竹内……」

「ごめんなさい！私また寝ちゃった…」

「えっ？！あっ…ああ…」

(っ…バレてないな？！まだ大丈夫だな？！)

お世

お世

グビッ

お世

「うっ…なんで私ってこっつなんだろう…」

お世

お世

(頼む！頼む！おい竹内！)

知ってても知らないフリをしてくれ！

気付いていても知らないフリを…！)

「約束してたのにすみませんでした…」

「いや…別にダイ、ジヨ…ブ…
…それより…その、体は変な感じしなう…？」

お世

お世

「ん…ん、ん… 特には…」

グビッ

お世

「そう…。まあ…今日は早く家に帰りなさい…。
暗くなると…危ないから…」

お世

グビッ

「はい…あの、眠ったのに図々しいかもしれませんが
明日の放課後もお願ひしてもいいですか…？
絶対に起きてるように頑張ります…」

「…ららよ…。」

あと…先生は怒ってないから安心してくれ…。」

「ハハ」

「ハハ」

「クハハハ」

「クハハハ」

「グハハハハ」

「グハハハ」

「よ、よよかったあ…！ありがとうございます…！
やっぱり先生は私の憧れです…！」

「…ははは…」



この日の夜は
不安で一睡もできなかつた…。

ムム

ムム

クイッ

クイッ

グキーン

グキーン





おはようございます

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

おはよう

「先生、おはようございますー!」

(あっ…竹内っ…)

ハハ

ハハ

「お…おはよう…」

「…先生、いじが具合が悪いですか?」

「あっ、いや…大丈夫だけど…」

クイッ

クイッ

グイッ

グイッ



「そうですか…?あ、昨日はすみませんでした。
今日の放課後もよろしくお願いします!」

(う、これは…全く気付いていない…?!)

(よ、よかった…!よかった…!)

昨日、眠っている竹内を犯してしまった俺だったが
普段通り、何も知らない様子の彼女を見て
俺はすっかり開き直った!

しゅっ

グビッ

ハッ

ハッ

クビッ

クビッ



「ああ、よろしく！」

「…ちなみに、お前昨日の放課後は何時から寝てた？」

「え？えーと…たしか最後に時計を見たのが16時くらいだったので…
わ、2時間も寝ちゃってたんですね…えへへへ」

「ハハ」

「ハハ」

「クハハハ」

「クハハハ」

「ゴッゴッ」

「(そっか…2時間も眠るのか…2時間も…)
「…その、寝てる時は何も意識はないんだよな？」

「クハハハ」 はら…なんでそんなこと聞くんですか？」

「クハハハ」

「なんでもないよ。お前、今日は居眠りするなよー?」

「ん」

「ん」

「はい！放課後は眠りませんー!」

「放課後だけじゃなくて一日中起きてるよー!」

クイーン

クイーン

グイーン

グイーン



もし、今日も眠ったら…

ニム

ニム

クィンズ

クィンズ

グィンズ

そんなことを考えながら、
悶々とした気持ちで一日を過ごした…。

しゅっ



放課後。

昨日、竹内が眠くなったと言った時間を狙って俺はわざと遅れて教室へ向かった。

「…来たよ」

「あ…せんせ…」

竹内は寝落ち寸前だった。

「あー、お前眠たいんだろ？」

「…いえ…起きてるって…約束しましたし…」

「ういよ、また明日も放課後付き合えるから」

「………はら………すみませ………」

アキコ…?

アキコ…?





「……………」

「…竹内？竹内ー？…寝たか…？」

「おはね…」

「おはね…」

「おはね…」

「…おはね…」

「おはね…」

（ね、寝た…！
こんな思った通りに物事が進むとは…！）



(((...))
今日も起きなうわ...!!

...

...

...

...

...

...

...

(これやりたかったんだよ! フェラチオ...! ♥
今日は朝からムラムラしすぎて
何度オナニーしそうになったか分からない...!)

「...んんんん...」

この欲望...全部お前だ
多っけおせへもらっかな...っ...





「...」

ふふ...

ふふ...

『♡...♡♡♡』

ズル...ズル...

ぴんぴん

ぴんぴん

ズル...ズル...
♡♡♡

ズル...ズル...



「あー...たがら...♡」

（ん）

（ん） （ん） （ん） （ん）

（ん）

ふふふふふふ

ふふふふふふ

Pinky

ふふふふふふ

Pinky

ふふ...

ふふ...

（ん...♡） （ん...♡） （ん...♡） （ん...♡） （ん...♡） （ん...♡）

「ん...♡」
「ん...♡」

Pinky
ん...

(寝ている教え子の口に、強引にち○こねじ込んでいる…っ！
俺、ありえないことやってる…っ！)

ぐん

ぐんぐんぐんぐん

ぐん

ぐんぐんぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐん

ぐんぐん

ぐんぐん

ぐん…

ぐんぐんぐんぐん

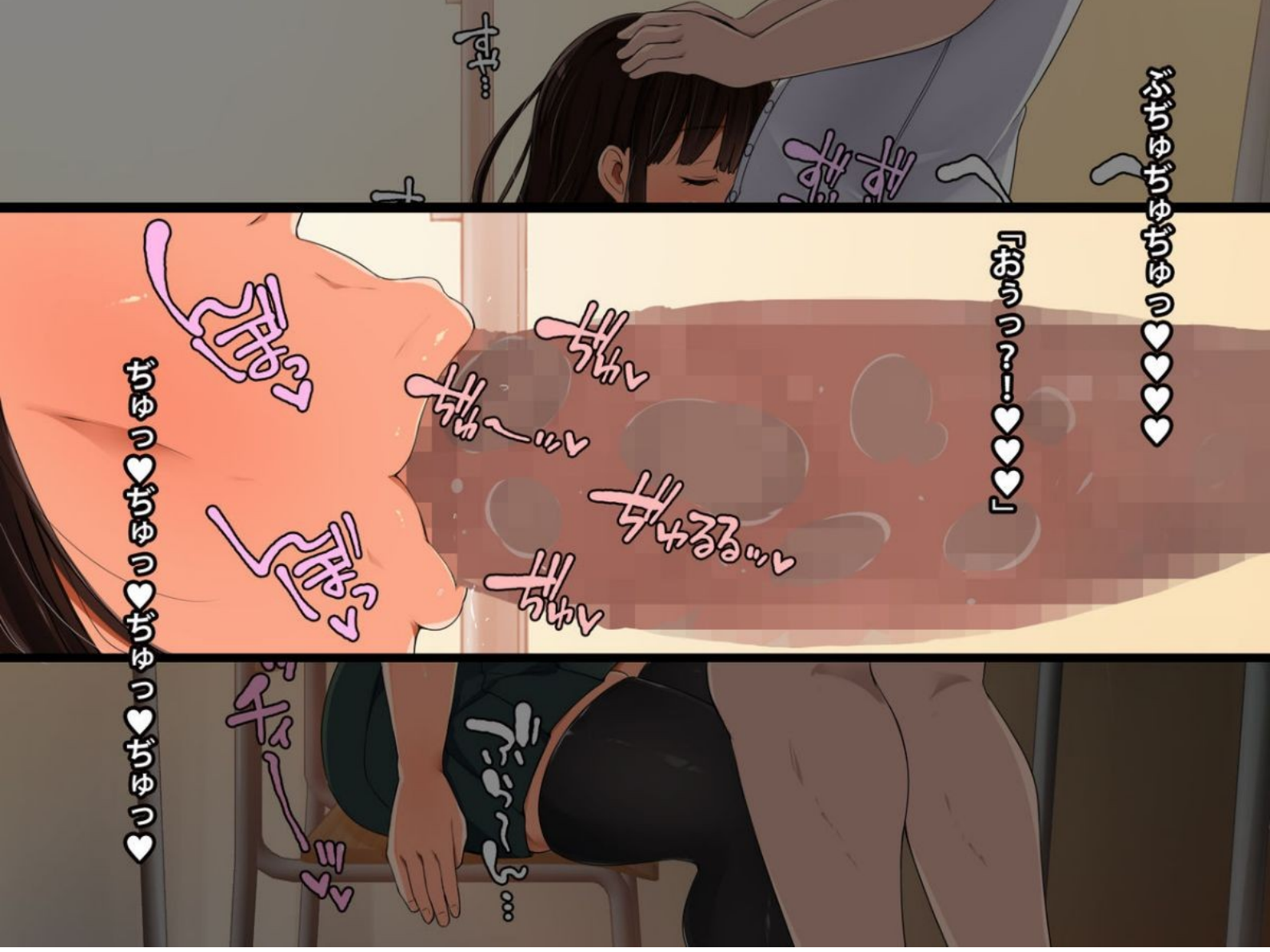
ぐんぐんぐんぐん

ぐんぐんぐんぐん

ぐん…

ぐんぐんぐんぐん

(バレたらただじゃすまないけど…！
せつかくこんなチャンスがあるのに
やらない男がいるわけないだろ…っ！)



♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

♡...♡

+

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡...♡

(えっ...?! す、吸い付いてきてる...っ?!)

(お、おい、本当に寝てるんだよな?!
なのにこんなスケベなフェラチオしてくるなんて...っ♡♡)

んほっ♡んほっ♡んほっ♡



んほっ...

んほっ♡
んほっ♡
んほっ♡
んほっ♡
んほっ♡

ちゅっ♡ちゅっ♡
ちゅるっ♡♡♡♡♡

(なんなんだよお前は...っ♡♡
こんなエロい生徒だったのか...っ♡♡)



んほっ...

(すげえエロい音立ててるし…♡♡
柔らかい口の中が俺のち○この先っぽに
ピッタリ張り付いて吸ってくる…♡♡♡♡)

(寝ながらこんな下品なフェラチオするなんて…っ！…
こいつ、天性のエロ才能を持つてるんじゃないのか…♡♡♡)

ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡ぢゅるっ♡
ぢゅっ♡ぢゅっ♡ぢゅるっ♡ぢゅるっ♡

んほっ♡んほっ♡んほっ♡
ぶほっ♡ほっ♡ほっ♡

ぢゅっ♡
ぢゅるっ♡
ぢゅっ♡
ぢゅるっ♡

「ああ、イキやうっ♡…♡♡
寝てる教えずに吸ら出されていっ♡♡…♡♡♡♡」

ぢゅっ♡
ぢゅるっ♡



「♡はあ♡はあ♡はあ♡」

フムフム

Pinoy

ミドロク...

ふふ...

ふふ...

「おほ...竹内のアフエチオ...
クセだをりなつた...」

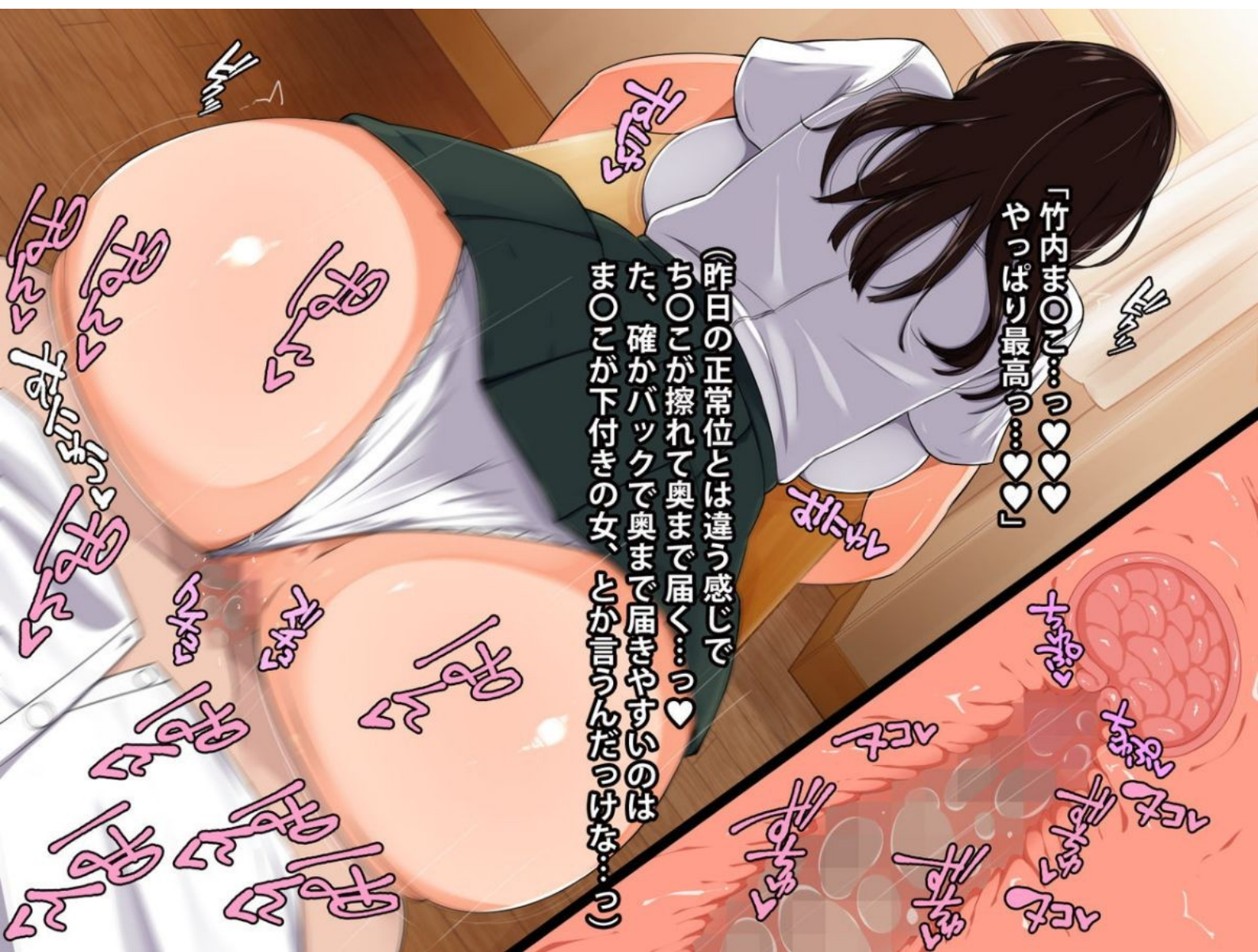
グニクニク

「そんなに気持ちいららアフエチオだったら
毎日してほしくなる...」



もう俺は彼女のあまりのエロさにやられて
完全に脳みそがマヒしている状態で…

眠っている彼女を犯すことは
悪いことではないように感じていた。



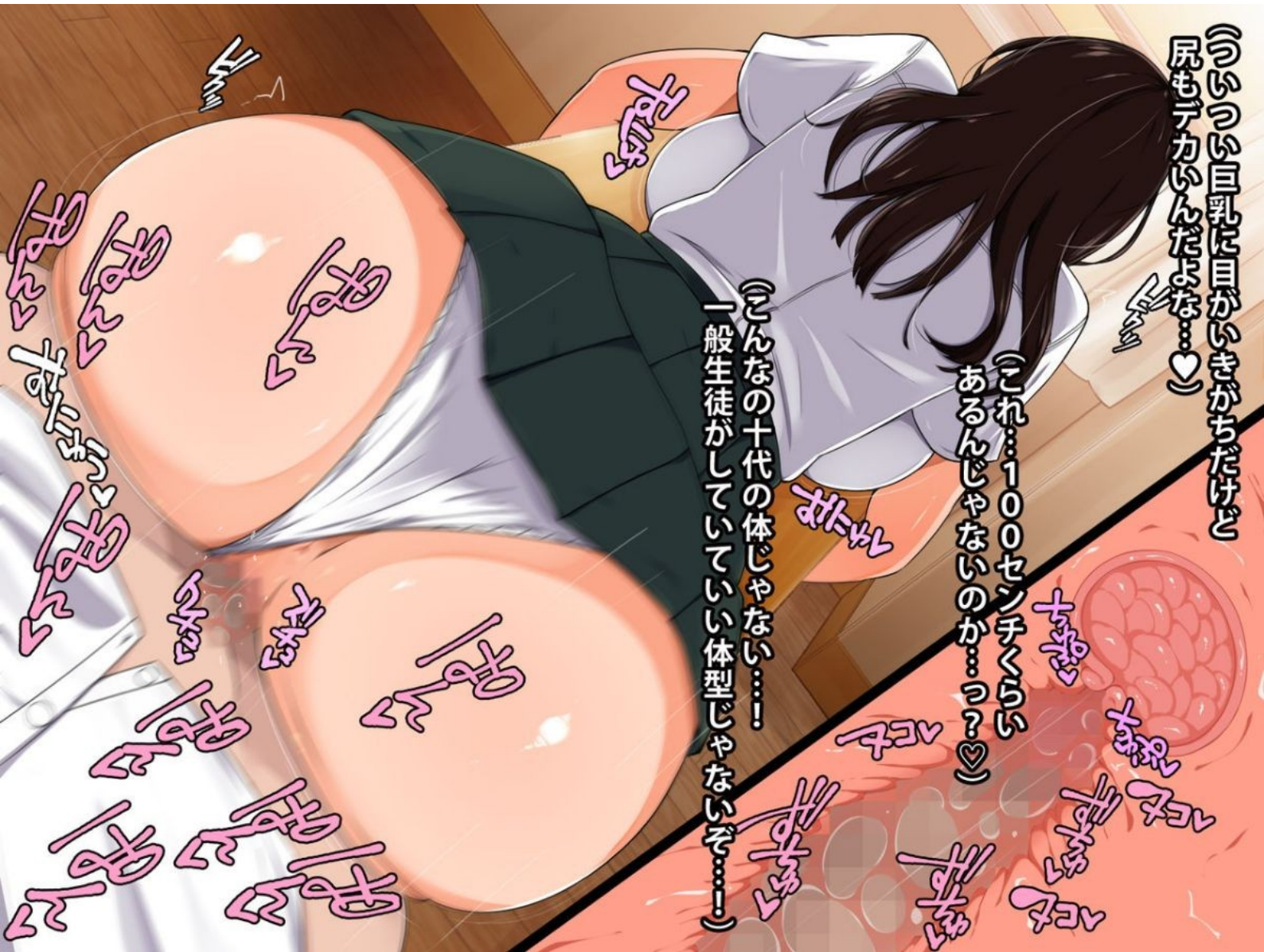
「竹内もONJ...♡♡♡♡
やっほ♡最高♡♡♡♡」

「(昨日の正常位とは違う感じで
ちゅ♡が擦れて奥まで届く...♡
た、確かバックで奥まで届きやすいのは
ま○こが下付きの女、とか言うんだっけな...♡)」

(つらつら巨乳を目がらきがちだけど尻もデカいらんだよね…♡)

(これ…100センチくらいあるんじゃないのか…♡)

(こんなの十代の体じゃない…！一般生徒がしているいい体型じゃないぞ…！)



「太っつらるよつに見えなりのに巨乳で尻もデカくて……っ！
こんな体を見て我慢できるわけないじゃないか……！♡た♡

「これじゃ担任に犯されても仕方ないだろ……っ♡
そうだろ、竹内っ！♡♡♡」



ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ぱん

「このまま中にだすからなっ……♡
昨日みだりにっ……♡♡♡」

ぱん

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡
ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ぱん

「お前だつて俺のこと嫌いじゃないだろっ……♡
中出しされてもいいよな？♡いっ？♡
くぐぐぐ♡くぐ♡くぐ♡くぐ♡」

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡
ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

事が終わり、席に彼女を戻して十分後…

すずか…

すずか…

すずか…

すずか…





「...おっ、起きたか？」

ひん...

「.....」

ひん...

ひん...

「あああ…す、すみません！昨日に続いて…！」

（よ、よし！大丈夫だな…！）

「はは、いいよ。その代わり今日もしっかり家で勉強だぞ？」

お世

お世

グビッソソソ

お世

「…は、おら…」

「気にするな、またいつでも教えてあげられるから」
（明日でもいらそ…）

しゅっしゅっ



こうして味をしめた俺は、この日以降
学校で真面目に教師の仕事をしながらも

眠っている竹内をもっとエロく犯す方法を
日常的に考えるようになっていった。

ある日、俺は体育教師に
竹内のことを尋ねてみた。

「すみません、うちの竹内瑛子は
体育の授業中はどんな感じですかね…？」

「ああ、竹内さんね…。彼女、少しうとうとしてると思ったら
運動してる最中でもスッと寝ちゃうことがあるよ…。
なんというか気絶みたいな感じだからこっちとしては
いつもハラハラしていてねえ…。」

「そうですか…いつもご迷惑おかけしてすみません。
今日は体育の授業って3限でしたよね？
その時間は空きなので、終わった後に私が迎えに行きますよ」

「おお、それは助かります。
それではすみませんが今日はよろしくお願いします。」

(よ、よし…
これで今日も…！)

その後、体育教師には少し怪しまれたが
俺はスク水のまま寝ている竹内をなんとか回収し…

彼女がいつもはいているニーソックスをはかせた。

しゅわん
しゅわん
しゅわん

しゅわん
しゅわん

しゅわん
しゅわん

しゅわん

しゅわん

しゅわん
しゅわん

しゅわん



「やった…やったぞ！この水着姿が見たかったんだ…！
ただでさえエロい体をしてくるせに
スク水でムッチリ感が強調されてさらにエロくなってる…！」



「ニーソックスもばっちりはかせたし…！
これで男を興奮させるための夢の着エロ…！
…まさかそれを自分の教え子にさせることができるなんて…！」

（つていうか俺のクラスの男子、竹内のこんなエロいスク水姿
いつも見てんのかよ…！マジで羨ましすぎるだろ…。
毎日オカズにされてるんだらうなあ…。
うん…俺のクラスの男子はプール期間中は絶対に竹内で抜いている。
間違いない）

（はあ…簡単にこんなエロい体を堪能できるなら
俺も体育教師を目指せばよかった…）

（ま、それは置いといて…
はやくこのデカ尻を味わうか…♡）

しゅわっ
ぽんっ

んんん

みゅっ
ぽんっ

みゅっ

ぽんっ

ぽんっ

ぽんっ

（ああ〜…いい♡
自分よりデカイ尻にち○ぽ擦り付けるのって♡
なんでこんな気持ちいいんだろ…♡♡）

（というか俺、成人男性だぞ?!
俺より尻がデカいっておかしいだろ…!
その事実だけで興奮してち○ぽがもっと硬くなるわ…♡）



「俺のガチガチのち○ぽ…♡お前のムチムチの尻肉に挟まれて
いきそうになってるんだぞ…♡わかるか…?♡♡」

「んっ…♡♡」

あつあつ
あつあつ
あつあつ

チンチン

んっ…♡♡

あつあつ
あつあつ

んっ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

んっ

んっ

んっ

んっ



ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

「俺、もう射精の準備しちゃつてるんだよ♡
わかるよな？♡カウパッドだけ洩れで
滑りがすごくよくなってるもんな？♡」

んんん

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

「お前のスク水♡俺の精子で
べちゃべちゃに汚してあげるからな♡
嬉しいだろ？♡ちゃんと喜んでくれよ？♡」

ぽんぽん

ぽんぽん

「んんん、んんん♡♡♡」



ミミツツ♡♡♡♡♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡♡♡♡♡
フェリス♡♡♡♡♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡♡♡♡♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡♡♡♡♡

フェリス♡♡♡♡♡

フェリス♡♡♡♡♡

フェリス♡

フェリス♡

フェリス♡

まじりて...♡

（上から谷間に向かってチ○ポ突っ込んでみたけど
これは大正解...♡♡）

アハハ

みかり♡
アハハ

おにい♡

まじり♡

アハ

アハハ

アハハ

アハハ...

おにい♡

アハ

アハ

アハ

（スク水で締め付けられてすげえ乳圧がかかっている...♡♡♡
こんな乳圧ってありかよ...♡♡♡）

まじりまじり...♡

(しかもこれなら竹内のエロい鼠径部も拝めるし...♡
パイズリしながら質の高いオカズでオナニーしてるみたいな...♡)

QTA

せにい

アハハ

みかり

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

アハハ

せにん

アハハ

アハハ

アハハ

(なんかすげえ自分勝手に
教え子の体使ってる感じがして興奮する...♡)

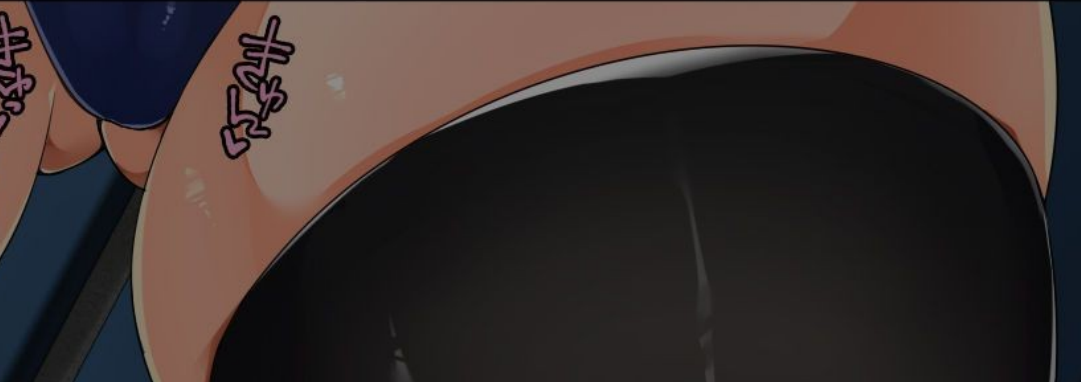
(…あっ♡一番奥までチ○ポ突っ込むと…♡
龟头がスク水で刺激されて…♡
き、気持ちいいっ…♡)

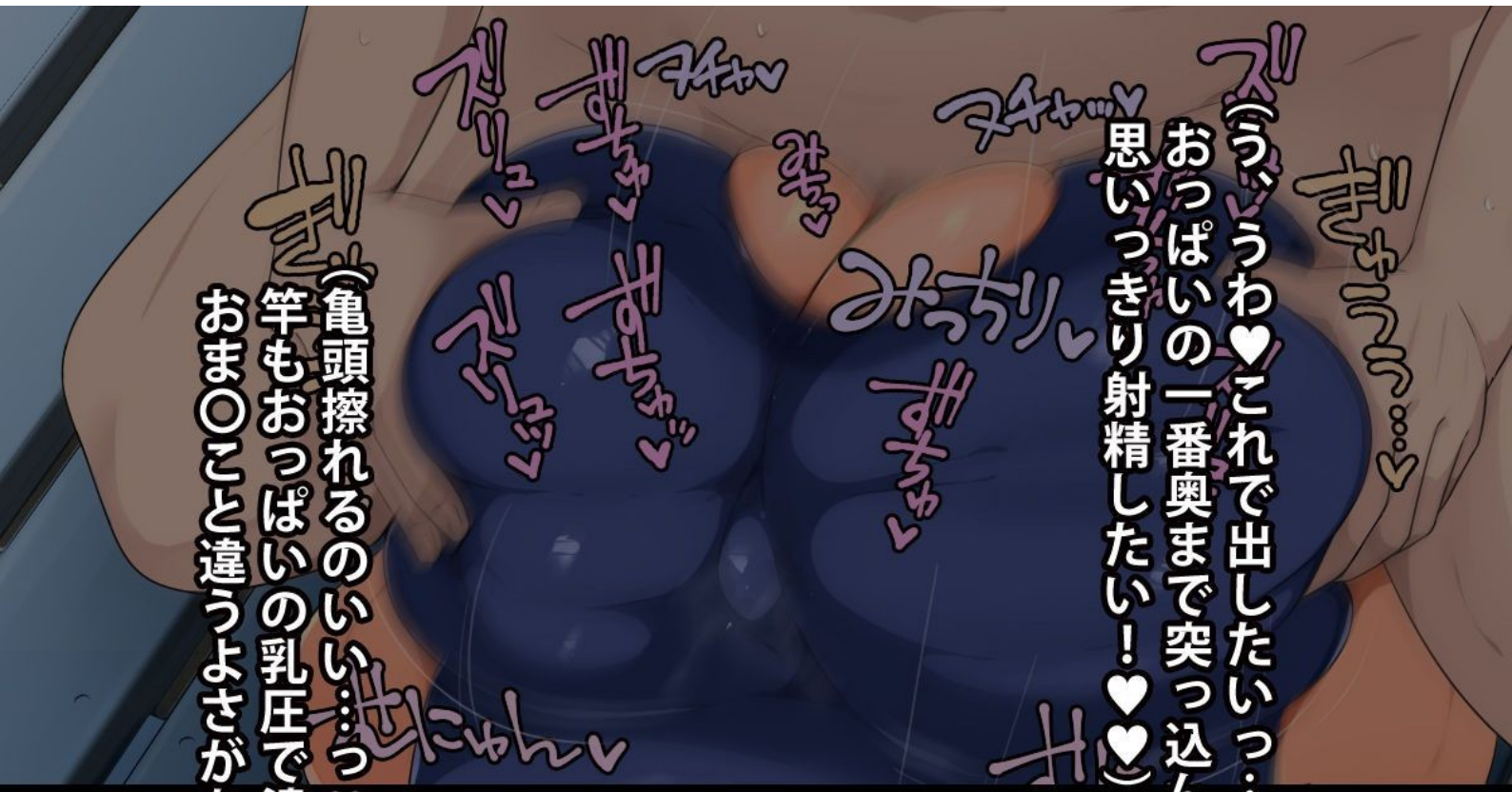


♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡



(す、すげえ気持ちいいっ♡♡♡
チ○ポがバカになる…っ♡♡
やべえっ…♡♡)





（う、うわ♥これで出したっ…！♥
おっぱいの一番奥まで突っ込んで
思いっきり射精したい！♥♥）

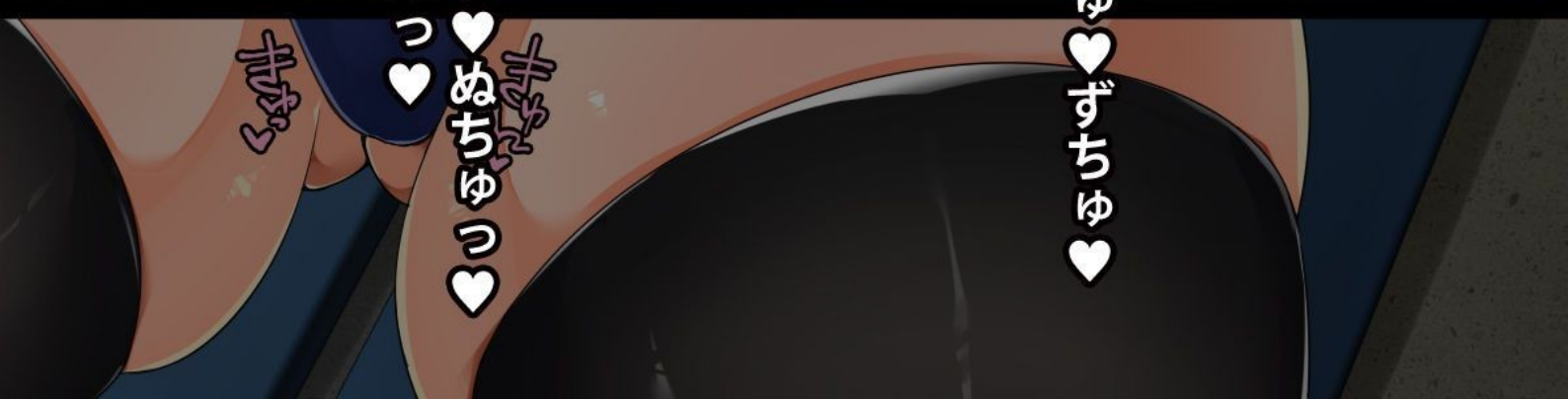
（亀頭擦れるのいい…っ♥♥
竿もおっぱいの乳圧で潰されてっ♥
おま○じと違うよさがあるっ♥♥♥♥）



くっくっくっくっくっくっくっくっくっ

ずちゅ♥ずちゅ♥ずちゅ♥

ぬちゅっ♥ぬちゅっ♥ぬちゅっ♥ぬちゅっ♥ぬちゅっ♥



ずちゅ♥ずちゅ♥

「あ、うくっ...♡」

「お前のエロい体見ながらうくっ♡♡♡」

「あ、うくっ...♡」

「あ、うくっ...♡」

「はちゅ♡はちゅ♡♡」

「あ、うくっ...♡」

「あ、うくっ...♡」

「あ、うくっ...♡」

「はちゅ♡はちゅ♡♡
はちゅ♡はちゅ♡♡
はちゅ♡はちゅ♡♡

「あ、うくっ...♡」

「あ、うくっ...♡」

「あ、うくっ...♡」

「あ、うくっ...♡」

「教え子のムチムチしたエッチなお股を生オカズにして射精するっ♡♡♡乳内射精するっ♡♡♡出るっ♡♡♡」

「おはっおはっおはっ♡♡♡おはっ♡♡♡」

「おはっおはっおはっ...」

「おはっ♡♡♡おはっ♡♡♡おはっ♡♡♡」

びゅんぬっ♡♡びゅんぬっ♡♡
びゅんぬっ♡♡

びゅんぬっ♡♡びゅんぬっぬっぬっ♡♡

びゅんぬっ♡♡

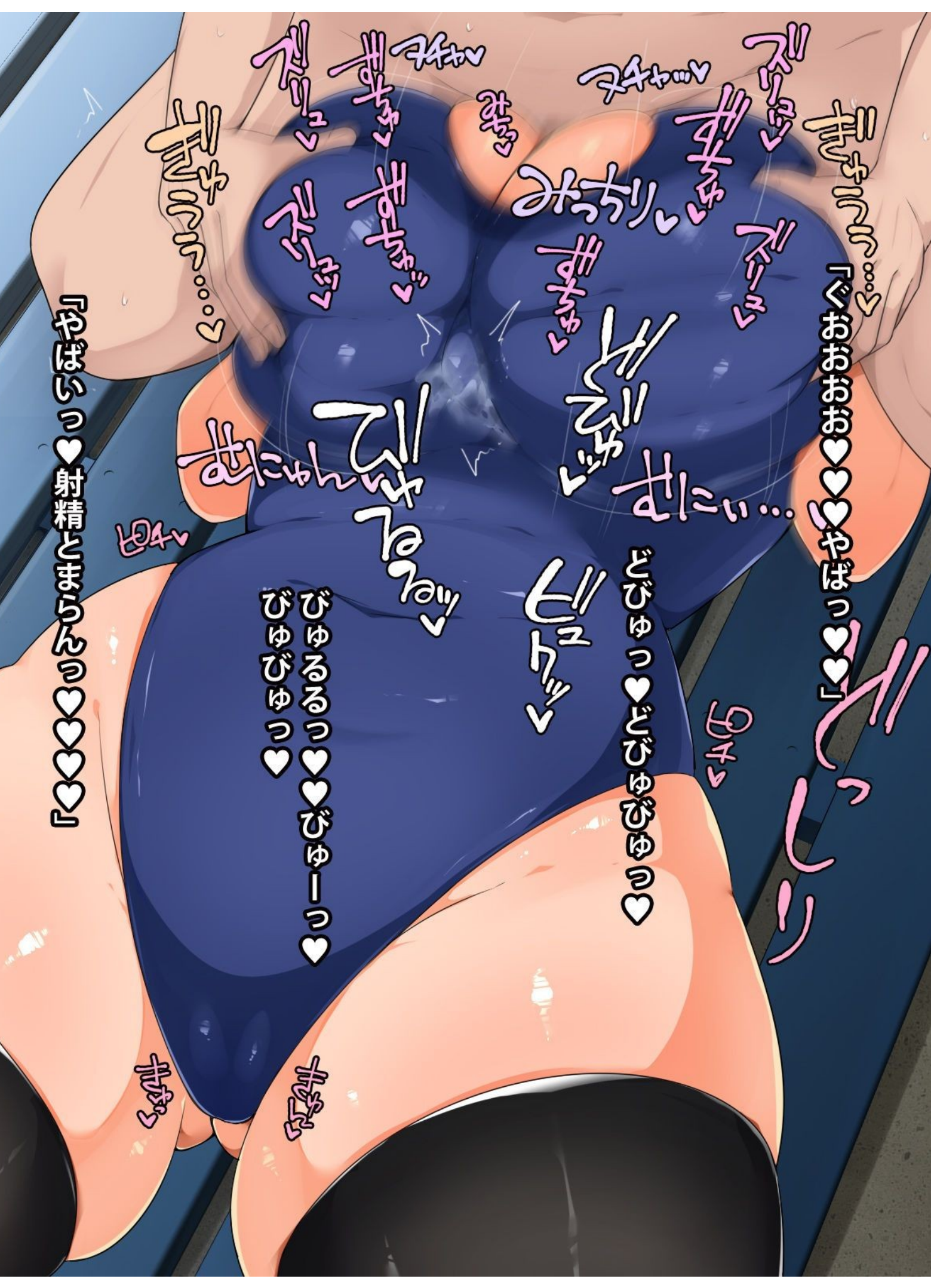
びゅんぬっ♡♡

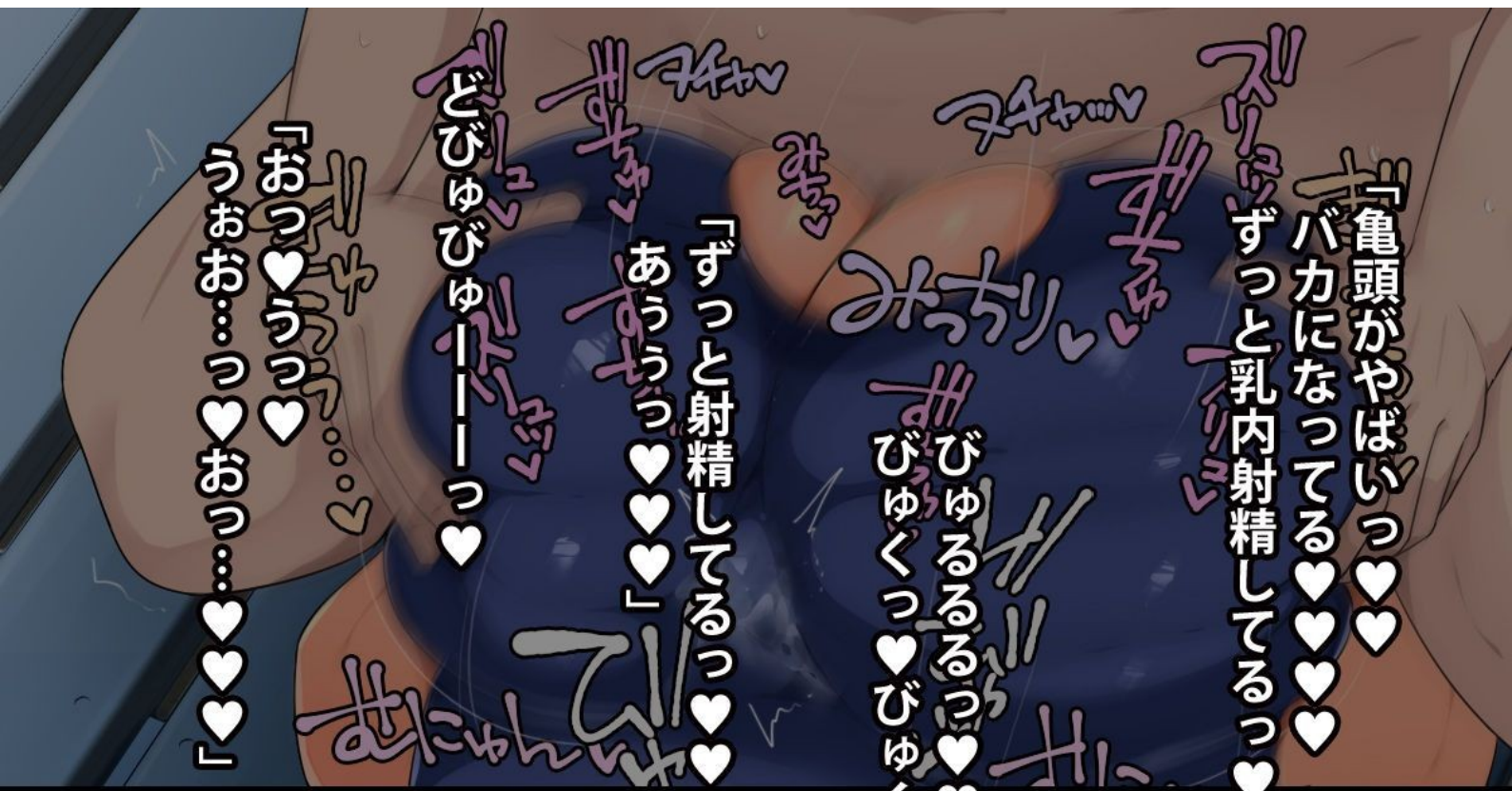
びゅんぬっ♡♡

びゅんぬっ♡♡

びゅんぬっ♡♡

びゅんぬっ♡♡





「亀頭がやばいっ♡♡♡
バカになってる♡♡♡♡♡
ずっと乳内射精してるっ♡♡♡♡♡

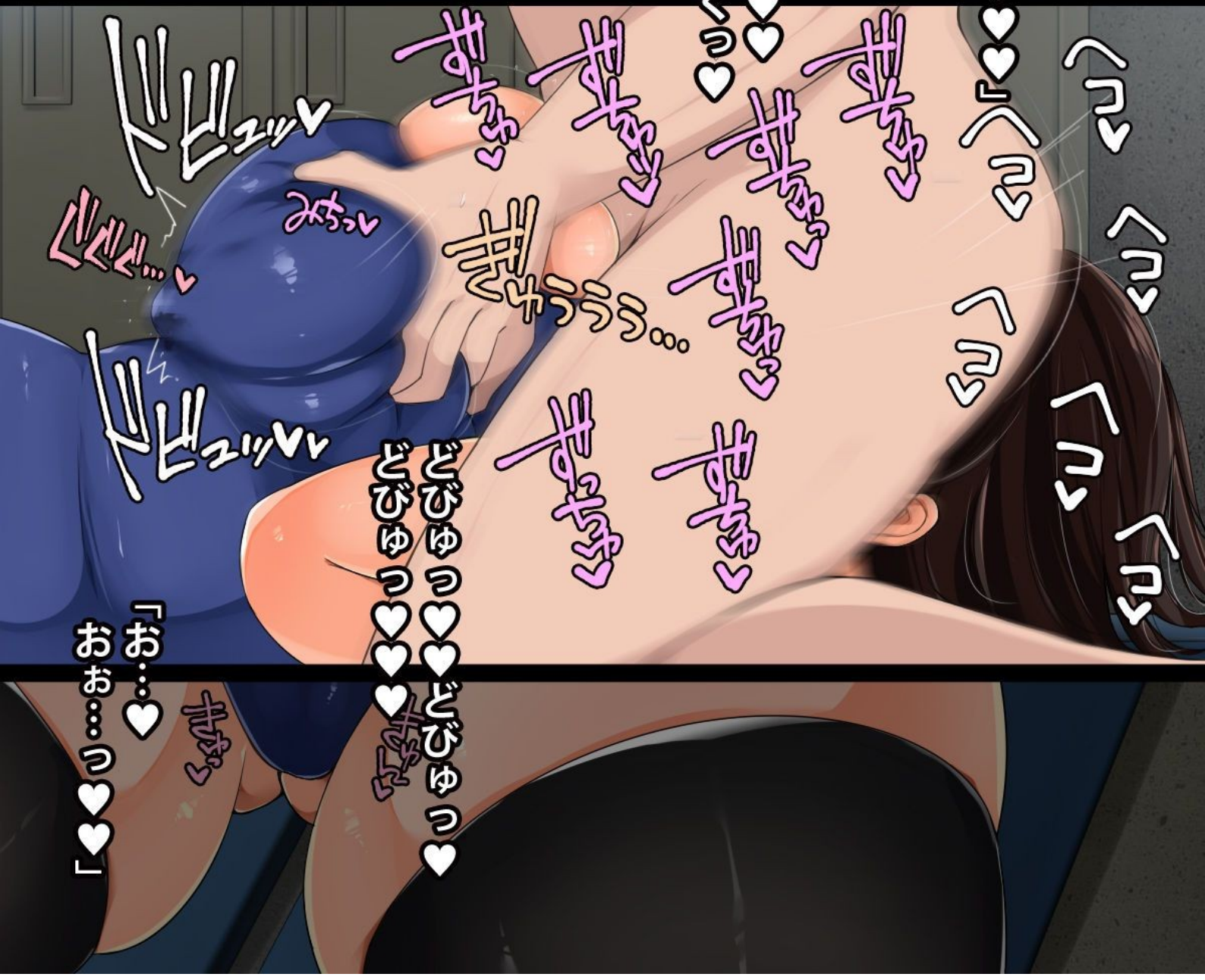
みっか
びゅるるるっ♡♡♡♡♡
びゅくっ♡びゅくっ♡

「ずっと射精してるっ♡♡♡

あうっ♡♡♡♡♡

びゅるるるっ♡♡♡♡♡

「おっ♡うっ♡
うおお…っ♡おっ…♡♡♡



♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

うう…

ぶわわっ♡♡♡♡♡
ぶわわっ♡♡♡♡♡

「お…♡
おお…っ♡♡♡





「びしょびしょに濡れてるじゃねえか…っ
尻コキされたりパイズリされたりで
おま〇こ切なくなってるんだな？♡♡」

「性欲旺盛な若いメスめっ♡
寝てるくせに感じがうて♡♡
体だけじゃなくても心も淫乱なんだな♡♡♡」





「いつも明るく元気で真面目なフリして
その実態は眠りながらおま○こ濡らす淫乱女♡」

「ふ……♡♡」

「寝てる顔といつもの顔のギャップがたまんねえ……♡
これは犯しがいがある……♡♡♡♡♡♡
犯してるって感じがするっ！♡♡♡♡♡♡」

アハッ♡



「持ち上げた時のズツツくる重さもまたエロい♡♡
重さで興奮してくる♡♡
脂の乗ったメスの重さエロすぎる♡♡」

「まだガキのくせにちゃんどメスの体をしてるんだって
改めて思い知らされるよ♡♡♡♡」

ぽん♡ぽん♡ぽん♡ぽん♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡
ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

ぽん♡ぽん♡

「腰振り止められならっ♡
こんなエロい体抱らてるのに、ドストン
止めたらもったいならっ♡♡♡」

「...んん...♡♡」

「少しでも多く腰振って♡
お前のお●んこたくさん味わうからな♡♡」

「あく気持ちいい♡♡
お前の中に出す♡♡♡♡
まだ午後も授業あるけど♡
どっぶり中出しする♡♡♡
全部受け止めるよ♡♡♡」

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡
ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ぱん♡ぱん♡ぱん♡ぱん♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

ずっちゅ♡ずっちゅ♡

「奥で出すっ♡もっ♡と奥でっ♡
おま○んこの奥気持ちいらっ♡♡♡
尻肉押しつぶして奥で出すっ♡♡♡」

♡ルルル♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

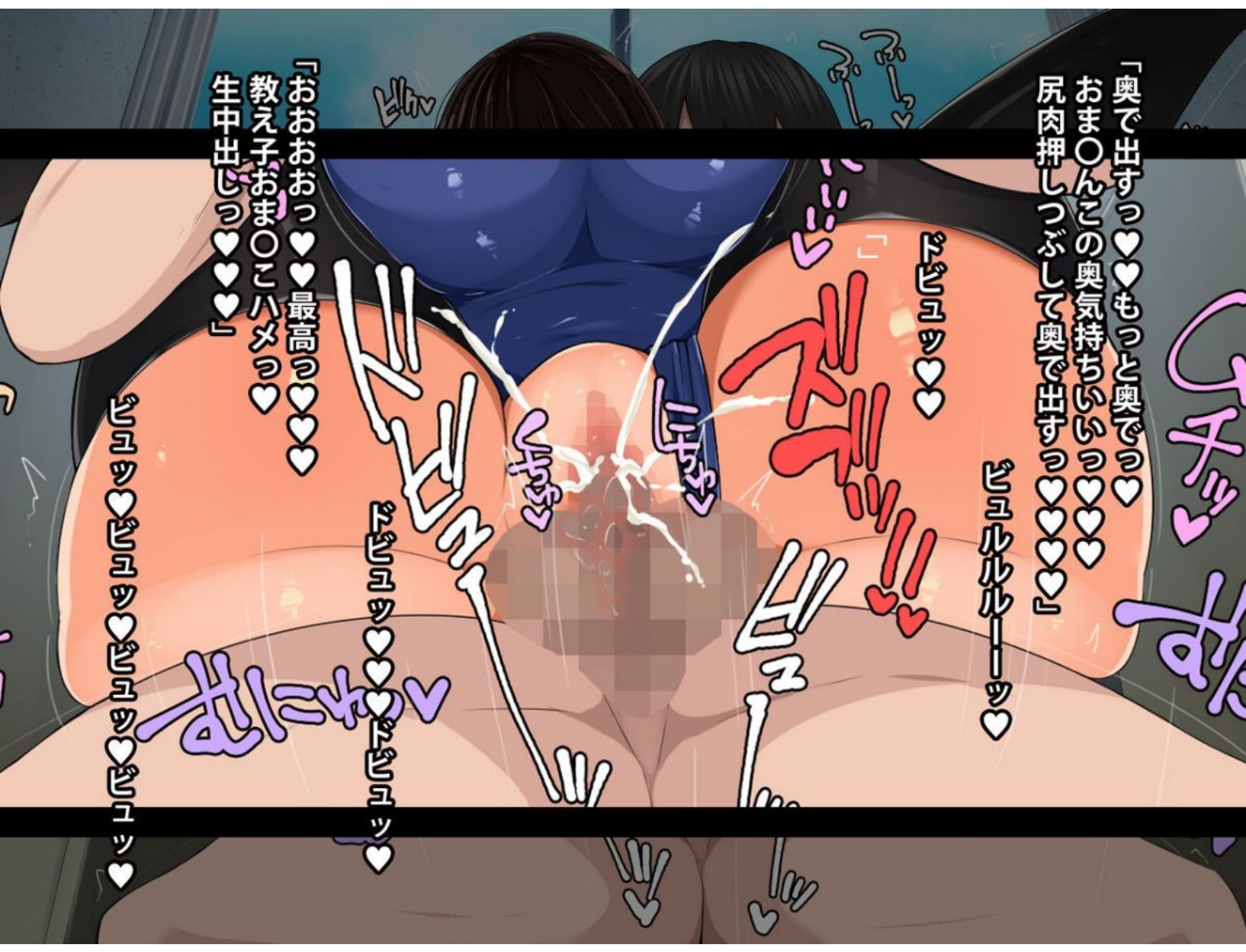
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

「おおおっ♡最高♡♡♡
教え子おま○こハメっ♡
生中出しっ♡♡♡」

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡





「…大切な教え子が、今日の午後は俺の精子をマ●コに入れたまま授業を受けるなんて…っ♡背徳感で頭がおかしくなりそうだよ…っ♡♡♡」

「うっ♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

「んん♡…♡…♡」

寝ている竹内を犯し始めてから数日…

俺は放課後だけではなく、他の教師の授業中でも彼女が寝ているときは回収するようになった。

「あ、すみません。うちの社内は今日も寝ていますか...?」

「ああ、小林先生...いつも通りですよ」

「おは...」

「すみ...」

「実は今朝少し具合が悪そうだったんですよ。心配なので保健室に連れて行ってもらって...」

「そうだったんですか...じゃあすみませんがよろしく願います」



「おは...」

「おは...」

なぜなら、寝てしまえばどこへでも運べて
誰にも見つからない場所で犯せるから！！♡

やりたい場所で…やりたいように
教え子に中出しできるから！♡♡



ああ、竹内…♡お前やっぱリエロすぎる♡♡
すぐに寝てくれて犯し放題だなんて、
俺がおかしくなるのもしょうがないよな？

こうなっちゃったのも全部お前のせいだから！
お前分かってんのか？寝てるから分かんないか！ははっ！

ひゅ…

ヒクッ

ん…

ゆっ♡

クッ

クッ

ヒクッ

おっ
おっ
おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ

おっ
おっ
おっ
おっ



(普段はキラキラした目で俺のことを見ていて…♡♡♡♡
「先生、先生」って可愛い声で呼んでくれる竹内…♡♡♡)

(それが、眠っている時だけ俺専用の肉オナホになる…♡♡♡♡
このギャップがたまんねえ♡♡♡♡)



キラ

キラ

キラ

オナホ

オナホ

オナホ

オナホ

オナホ

オナホ

オナホ

(いくら自分の大切な教え子だとしても…♡♡
やれるチャンスがあるんだっいたらやらなきや損だろ…♡♡♡)

キラ

キラ

ヒクッ

ラ

ラ

キラ

(やらない男がいたらそいつは男じゃないわな…♡♡♡
だって…何しても絶対起きないんだし…♡)

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

オムツ

「どんなに動かしても、どんなに
お●んこかき回しても
全く起きる気配なし♡♡」

「(もう何をしても絶対に起きなからってらう
自信があるからなんだってできる♡)」

「ありがとうな…♡
今が俺にとっての教師生活のピークだ…♡」

「…」

「…」



「こんな幸せをくれたお前に……ッ
今日も俺からのささやかなプレゼント♡♡♡♡
生中出しだ♡♡」

「竹内、嬉しいだろ？♡
憧れの先生の精液、嬉しいに決まってるよな……♡
喜んでくれて先生も嬉しいよ♡♡」

「……ッ」

「……♡♡♡♡」

「……ッ」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

「……♡」

日中、空いてる特別教室に
竹内を大胆に運んで...

「うわ、相変わらず
尻がかつ...♡」

「竹内、今日も...♡♡♡」

ブルブル...♡

♡♡♡

おにゅ♡

ブルブル...♡

おねえ...♡♡♡



そっ↑↑いえは、毎日やりまくってるせいで
感覚が色々々とマヒしてたけど…竹内って
結構カワイイ顔してるよな…

ほん♡
ほん♡
ほん♡
ほん♡
ほん♡
ほん♡
ほん♡
ほん♡

(これ…室々と告白して
付き合ってもらいたいんじゃないか…?)

(今だって実際、合意の
セックスをしている
ようなもんだろ?)

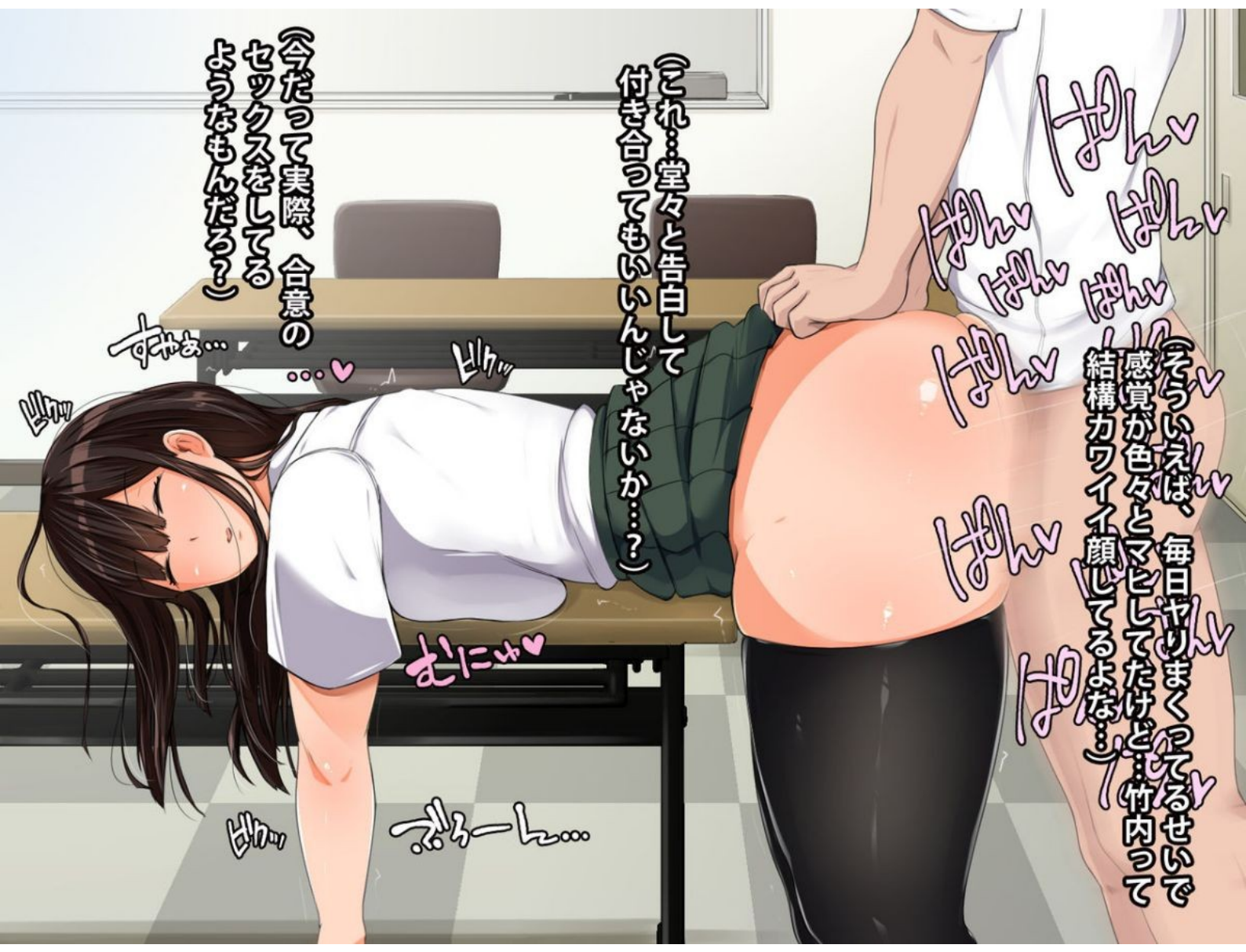
すかあ…

ふん…

おにゃ♡

はん♡

はん♡







「瑛子っ♡」

好きだよっ♡♡♡♡♡

「たけう...え、瑛子っ♡♡♡♡♡」

「竹内っ♡♡竹内っ♡♡♡♡♡」

（...告白したら急に愛おしくなった...♡♡♡♡♡）
竹内っ♡♡♡♡♡可愛いよ...♡♡♡♡♡

おん♡♡♡♡♡

ん...♡

んんん

んんん...

あにゅ♡

んん



「この子宮全部俺のもんだっ!♡♡」

「可愛いよっ!♡♡♡
好きだ、瑛子!♡♡」

「俺のものっ♡♡♡♡♡
お前は俺の女っ♡♡♡」

「中に妊すし♡♡♡
子宮の中妊すし♡♡♡
すくっ♡♡♡♡♡」

ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡
ずりゅ♡♡

ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡
ぽん♡ぽん♡

ぐわっ

おあ...

♡♡♡

ぐわっ

ぐわっ

ぶっ—ん...

おにゃ♡



「おっおっおっ」
「おっおっおっ」

「おっおっおっ」

「おっおっおっ」
「おっおっおっ」
「おっおっおっ」

「おっおっおっ」
「おっおっおっ」

「俺の精子が
飲み込まれてくのが分かる」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「瑛子…
好きだ…」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

「おっおっ」

こうしてどんどん思考も行動もエスカレートしていった…
気付けば、学校に行く目的が
彼女とエッチすることになっていた…

しかし、やはり学校でエッチをするのは
見つかった時のリスクが大きすぎる…
もっと安心できる場所で、人目を気にせずエッチしたい…

そう思った俺は、ついに竹内を自分の家に呼ぶことにした…

「なあ竹内、お前の志望校って県立大だったよな？」

「はい、そうです！
先生の母校ですよね」

「ハハ」

「ハハ」

「クハハハ」

「クハハハ」

「グハハハハ」

「グハハハハ」

「そつだ。それで…その参考書とかあるんだけど
今度俺の家に来ないか？勉強も落ちついて教えられるし。
………眠っても大丈夫だし」



「えっ！いいんですか？！先生の家？！
あっ…でも変なことしちゃだめですからね！」

「はは、バカ！大事な生徒に手を出すわけないだろ！」

「じゃあ、今週の土曜日の時半に直接来てくれるか？
住所のメモを渡しておく」

「えくく…ありがたうござります…すっくすっく楽しみ…！」

「おっ」

「おっ」

「おっ」



車で迎えに行ってもいいんだけど
今までの経験上、歩いてこさせた方が
疲労で長時間眠りやすくなるみたいだからな…

性力というの恐ろしいもので…
おそらく、すでに俺は瑛子の親よりも
彼女の睡眠サイクルを熟知しているだろう…

ニム

ニム

クイッ

クイッ

グググ

しゅっ

そして、待ちに待った土曜日…

玄関のチャイムが鳴り

竹内瑛子が俺の部屋に上がってきた。





「…あはは。なんか緊張しますね…」

「馬鹿なことを言うな、勉強しに来ただけだろ？」

（私服の教え子がっ…♡
お、俺の家に…♡
やっぱりおっぱいデカすぎ…♡♡）

（Tシャツで巨乳が強調されてるし…♡
やりたい…♡やりたい…♡♡♡）



早く寝てくれ...♡寝る...♡♡

じゃあ...この問題から解くか

やりたら...♡やりたくなる...♡♡

ほ...ほ...。なんじゃねえか...♡♡

シュー

シュー
シュー
シュー
シュー
シュー
シュー
シュー
シュー
シュー
シュー
シューッ



「キー、Nの接点のせいで...」

シューシューシュー
シューシューシュー
シューシューシュー

シューシューシュー
シューシューシュー
シューシューシュー
シューシューシュー

寝る♡早くやらせる♡寝る♡寝る♡
やりたらしい♡やりたらしい♡やりたらしい♡
やりたらしい♡やりたらしい♡やりたらしい♡
ごっわ

「通過点のNを...」

ふん

（やりたらしい♡やりたらしい♡やりたらしい♡）

チーンチーン

チーンチーン





うんうん

うんうん

『...♡♡♡』

うんうん...

『...♡♡♡』

うんうん

うんうん

どの時間に家に呼べば都合よく眠ってくれるのか、
計算した上で家に呼んだのだが…ビンゴ…!!
完璧なタイミングで眠ってくれた…!!

ここから先は、お察しの通りで…

グハグハ…?

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…

グハグハ…





「瑛子っ♡瑛子おっ♡」

「すっ♡…♡」

「っおおおお背徳感がヤバっ♡…♡」

Multiple instances of stylized pink sound effects: *ムキムキ*

Two instances of stylized pink sound effects: *ムキムキ*

Three instances of stylized pink sound effects: *ムキムキ*

Stylized pink sound effect: *ムキムキ…♡*

「よく寝る教え子をわざわざ家に呼んでセックスとか…♡エロ漫画の世界か♡」



「お、お前嬉しいだるー！♡
信頼してる俺とセックスできて♡」

「俺のこと好きだもんな！♡
おっきもドキドキしてたる？♡♡」

「お、俺もお前のこと好きだからっ♡
おっき聞らしてっわっ♡♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」

「うんっ...♡」



「え、瑛子…っ♡
俺はお前と結婚したいー!♡」

「えっ…♡」

「マジで十回できてもらさ…♡
そしたらすぐ結婚しようー!♡
ってらっか、そろそろ赤ちゃん
できてるんじやないのか?!♡♡」

「もう何回も中出ししてんし
できてもおかしくないだろー!♡♡
お前、ちゃんと生理きてるか?!♡♡
おい、きてないだろ?!♡♡♡」

「うんっ…♡」

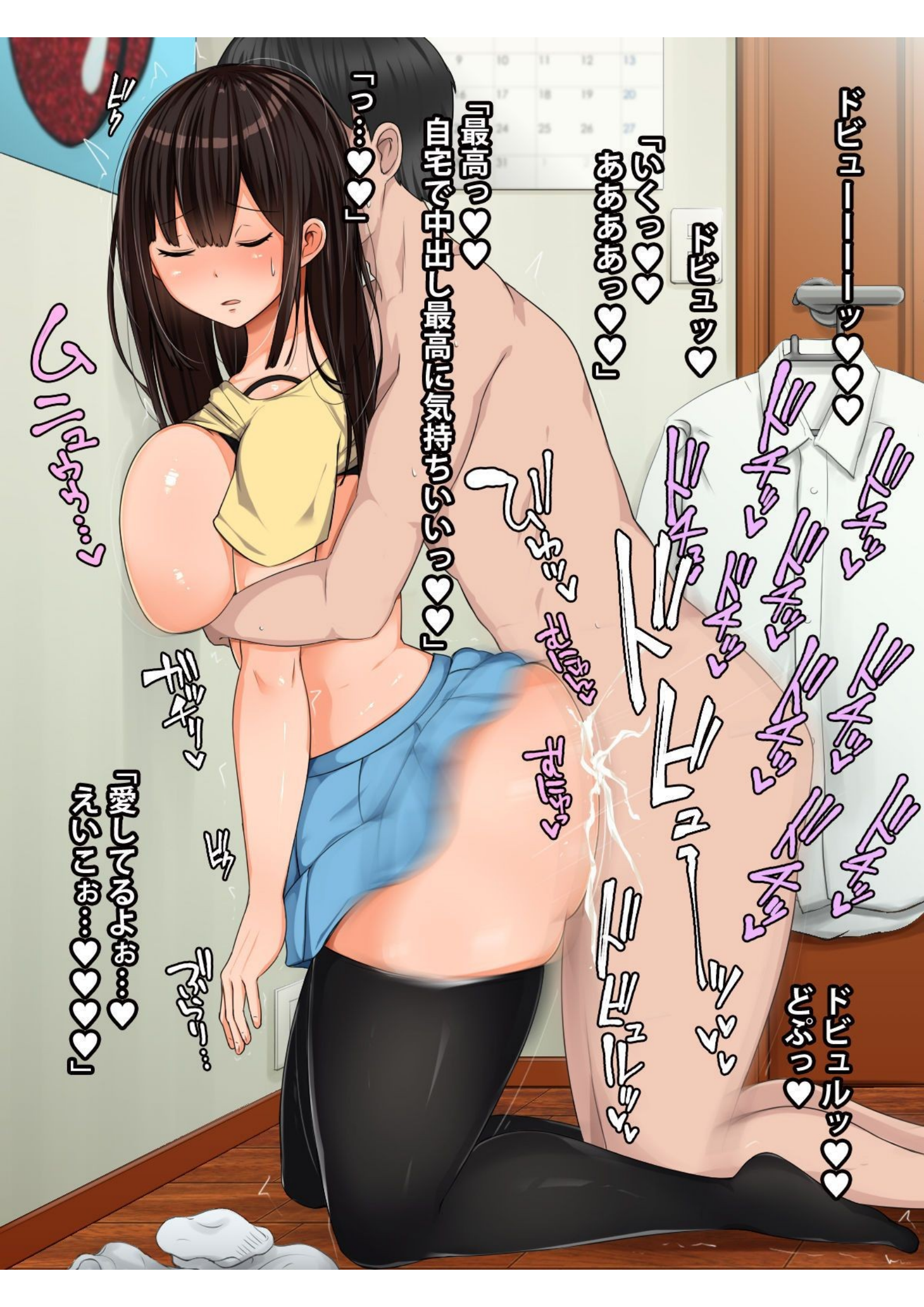
「うんっ…♡」

「うんっ…♡」

「うんっ…♡」

「うんっ…♡」





「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

「U...♡♡」

2時間後…



「瑛子っ…♡恋人同士になるっ…♡
生徒と教師なんて関係ない♡♡」

「お前は顔も可愛いし
体も言わずもがな、性格も
明るくていい…♡♡♡♡
こんな俺のことを慕ってくれて
尊敬までしてくれて…♡♡♡♡」

「一生大事にするからっ♡♡♡」

「♡♡…♡♡」



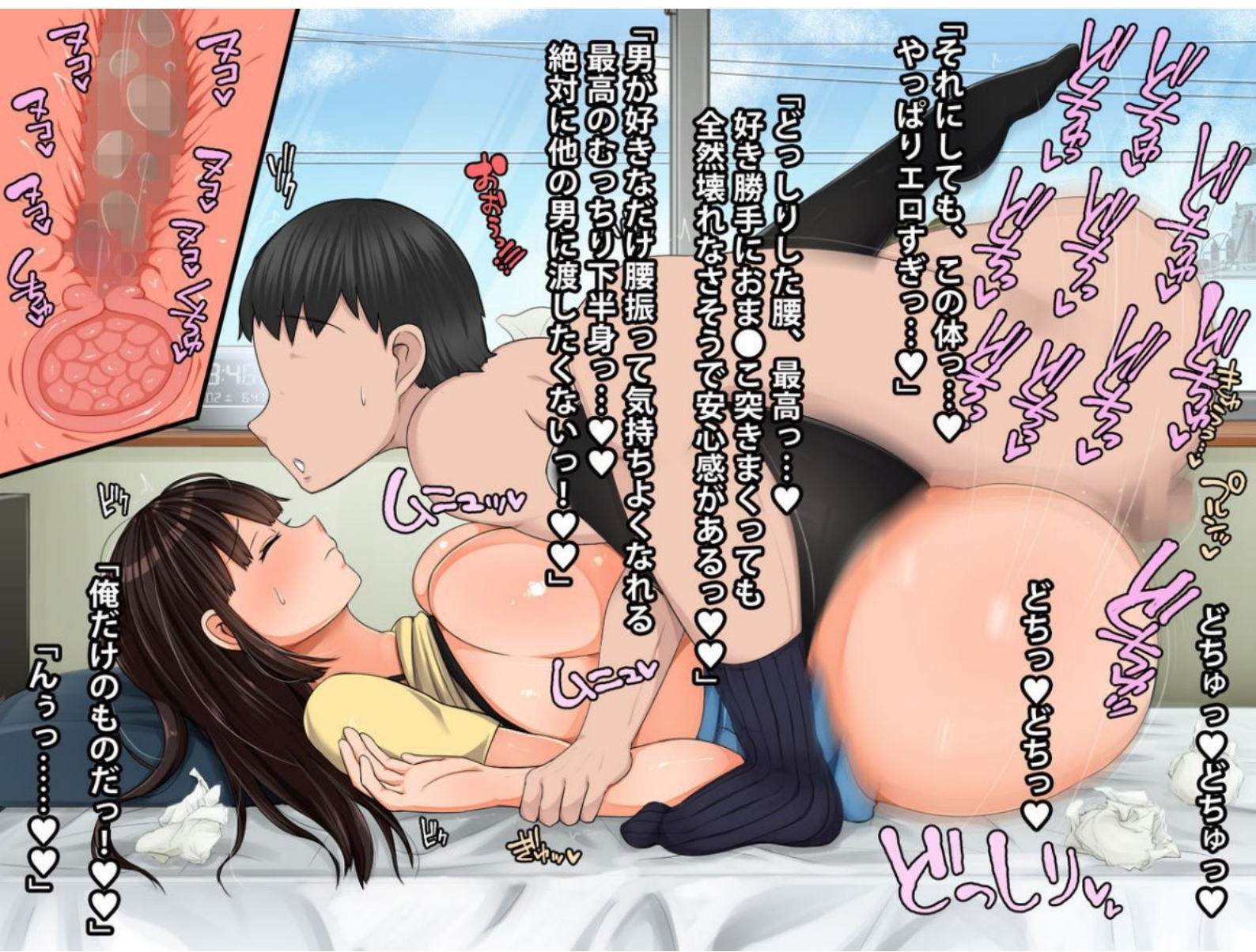
「それにしても、Nの体っ…♡
やっぱりヒロスキっ♡…♡」

「どっしりした腰、最高っ…♡
好き勝手におま○こ突きまくっっても
全然壊れなさそっで安心感があるっ♡…♡」

「男が好きなだけ腰振って気持ちよくなれる
最高のむっちり下半身っ…♡…♡
絶対に他の男に渡したくないっ…♡…♡」

「俺だけのものだっ…♡…♡」

「♡…♡」





「瑛子、さっさと
また中田くん♡」

「俺の可愛い瑛子の
腰に手を出す♡」

「胸を揉ませない♡」

「さっさとさっさと♡」

「さっさとさっさと♡」

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

♡さっさとさっさと♡

3:46
02: 64

さらに2時間後…



アハハハ...

「アハハハ...♡」

「♡...♡...♡...♡」

アハハ...

アハハ...

アハハハ...

アハハ...

アハハハ...

アハハ...

アハハ...



「うんうん♡♡」

♡んんん♡

「うん♡♡」

んんん♡♡

「また入ったぞ...♡♡♡♡」

んん♡♡

んん♡♡

んん♡♡

んん♡♡



自分の教え子が、好きな顔と体と性格…♡
…こんな奇跡ってあるか？♡
なあ瑛子…♡お前、俺のために
生まれてきたんだろ？♡♡

「そっなんだろ…？」
ああ…そっだ、絶対そっ…♡」

「絶対そっだ…♡♡♡」

のっ♡

のっ♡

うっ♡

うっ♡



「ああ〜可愛いっ！♡♡愛しすぎる…♡♡
俺のために生まれてきたなんて…♡♡
本当に可愛いよ…♡♡♡♡」

「これから先の人生…
俺がお前の全てを愛してやるからな…♡♡」

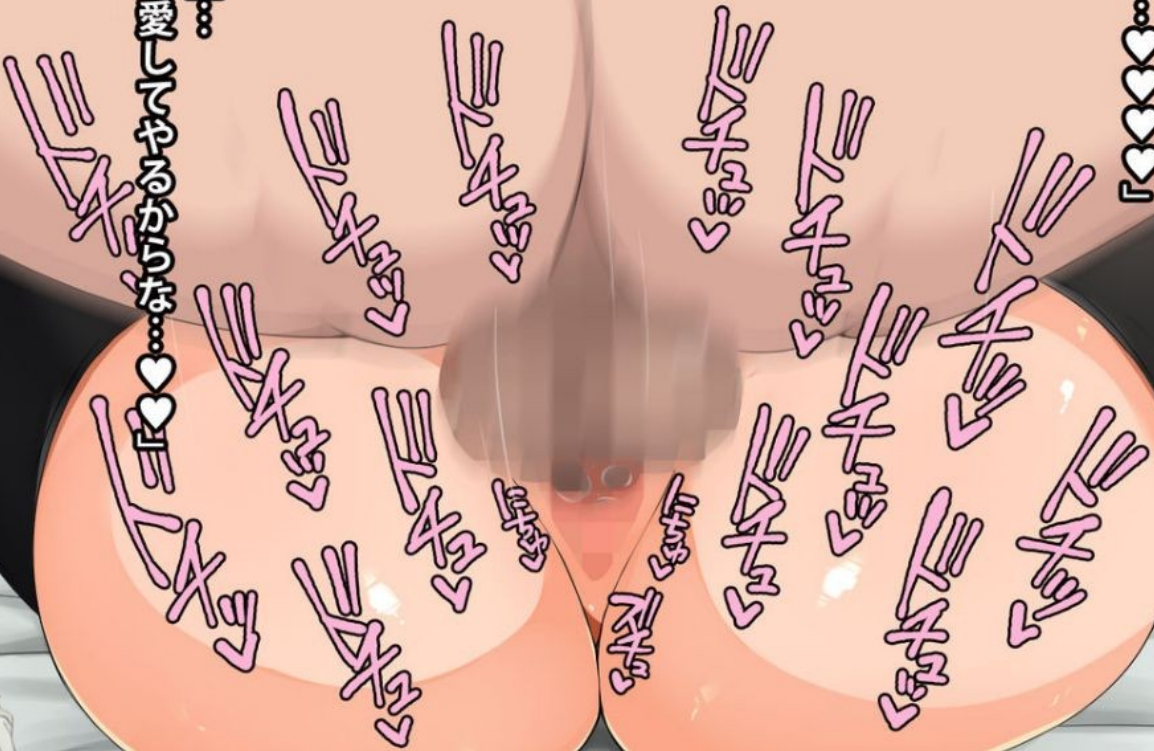
「だからいっぱいエッチしよう…♡♡
子供何人できたっていいぞ♡♡
俺が全員幸せにしてやる♡♡♡♡」

のっ♡

のっ♡

うた♡

うた♡





「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

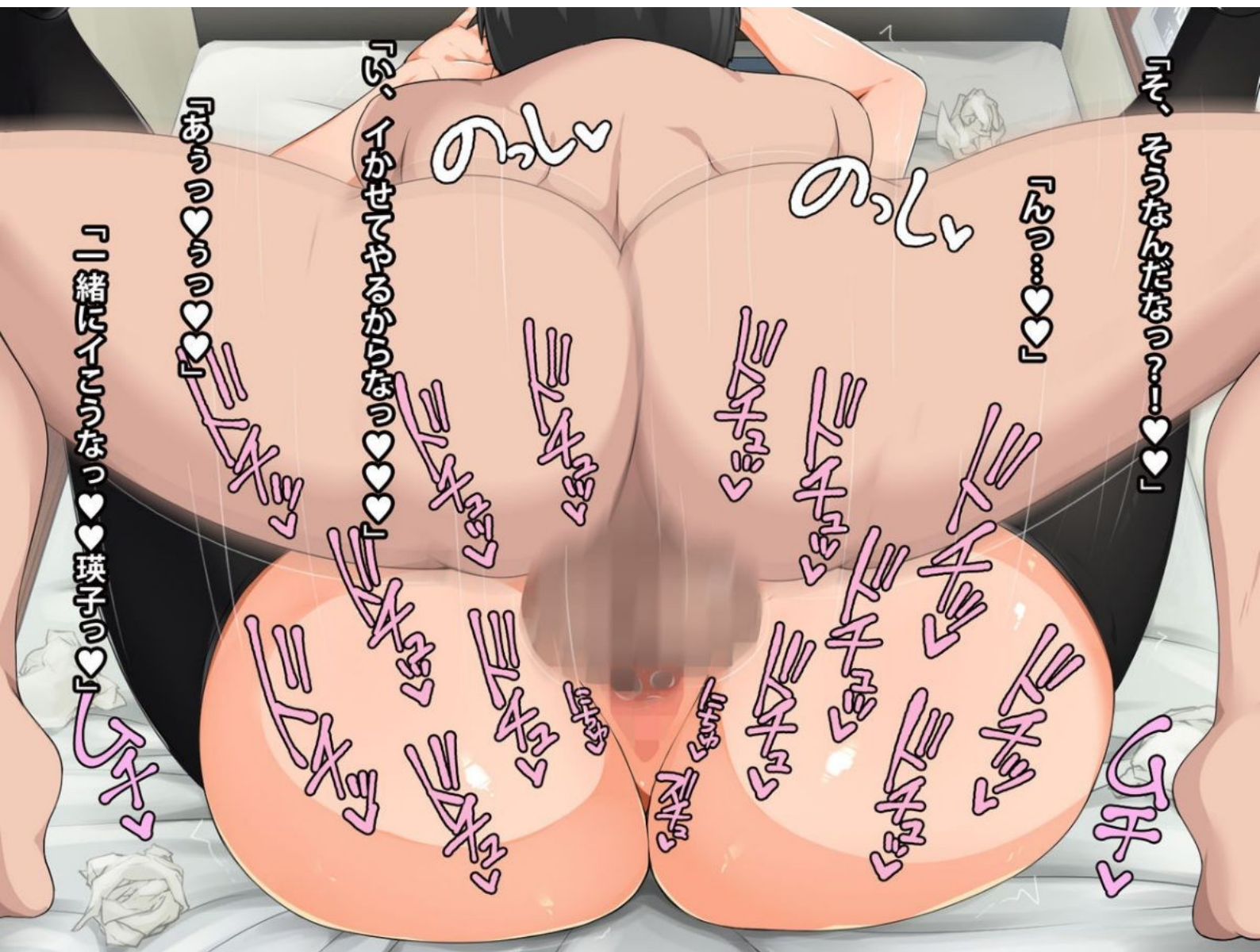
「お、おら...♡
...風が田のほのぼのしているのが...♡」

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡



「そ、そんなにだわっ♡♡♡」

「はっ♡♡♡」

のっ♡

のっ♡

「さ、やなやんせをさるひなひ♡♡♡」

「はっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡」

「一緒にいこうなっ♡♡♡瑛子♡♡♡」

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡





竹内瑛子、帰宅後――



…うん！今日もたくさん勉強できた！

先生の家でも寝ちゃったけど、起きるまで待っててくれてこんな夜まで付き合ってくれた…。

あんな優しくいい先生、他に絶対いないよね…

うわ

うき

たふふ
いふふ

うき

ふふ

たふふ
いふふ

ふふ…今日も優しくてカッコよかったな…♡♡♡
先生、彼女とかいるのかな…？♡♡♡



……そういえば最近、寝てる時に
いつも先生とシてる夢を見ちゃうんだよね……♡

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

ん
ん

……私って実はエッチな女の子なのかな……♡







カチン

カチン

カチン

カチン

カチン

カチン



カチン

カチン

カチン

カチン

カチン

カチン



んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん



おっぱい

お尻

おっぱい

おっぱい

お尻

お尻



1111

1111

Diana's

Diana's

Gifto

Gifto



117

117

Gifton

Gifton

Gifton

Gifton



Gifton

Gifton

Gifton

Gifton

Gifton

Gifton



お世

お世

お世

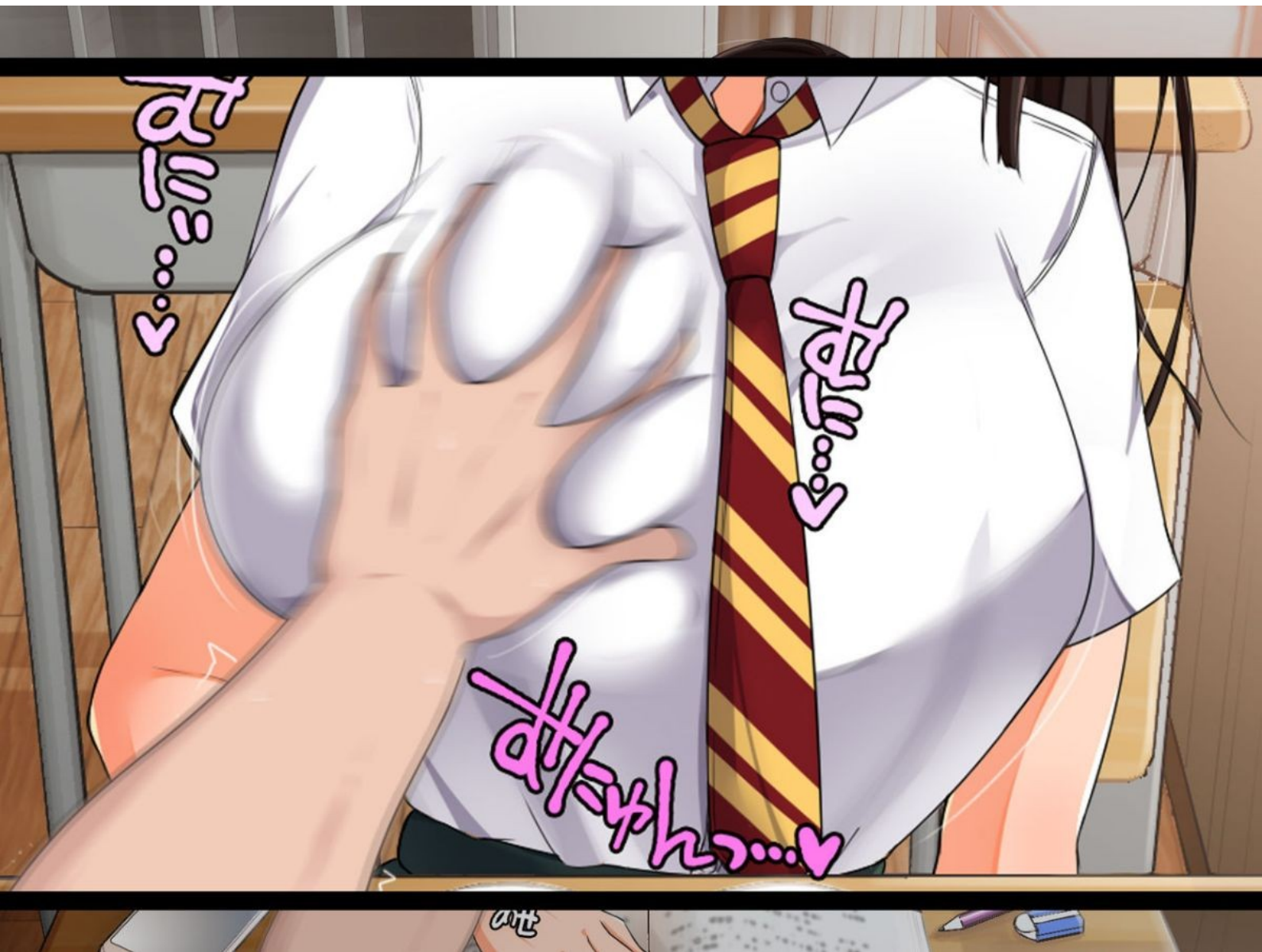
お世

お世

お世

































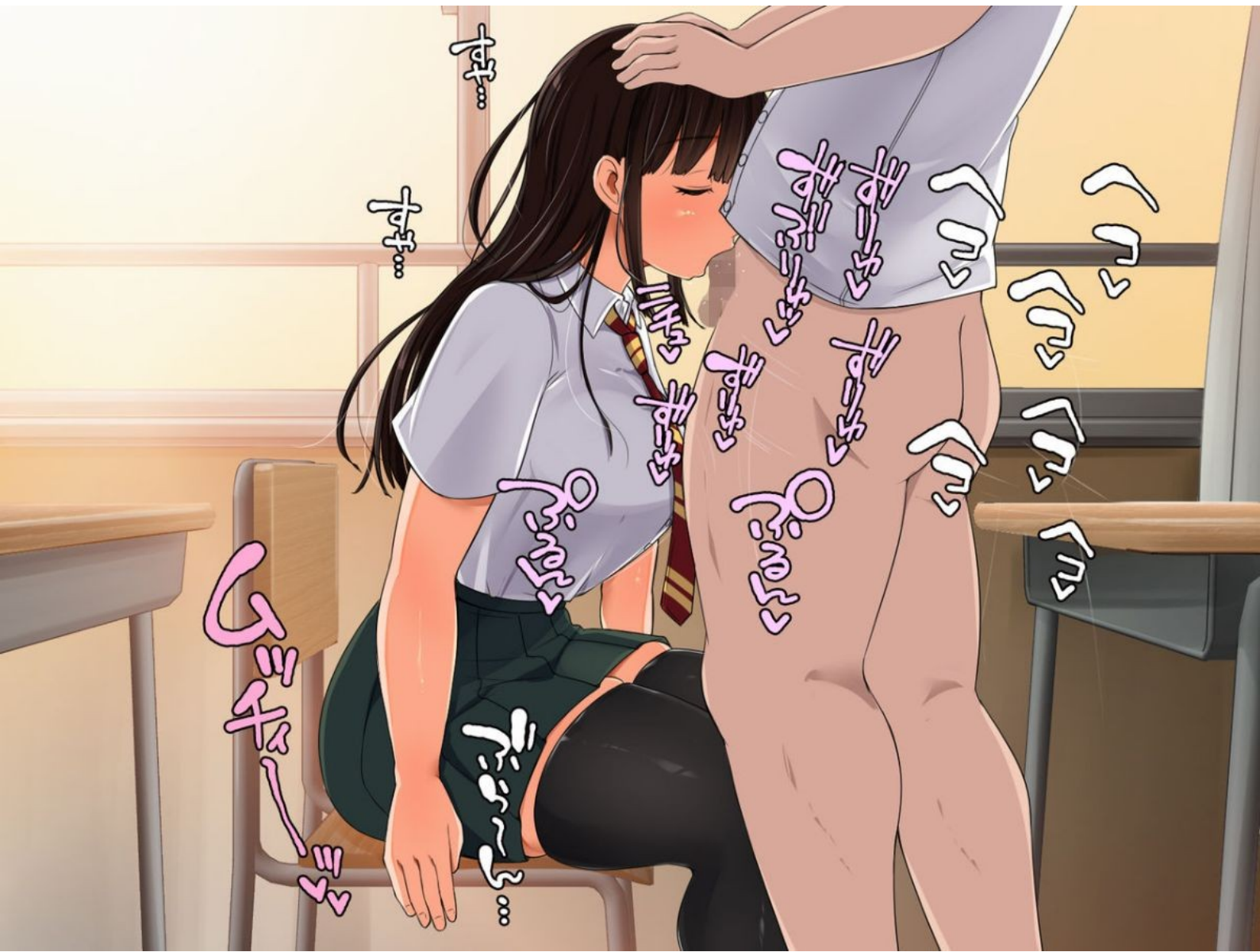


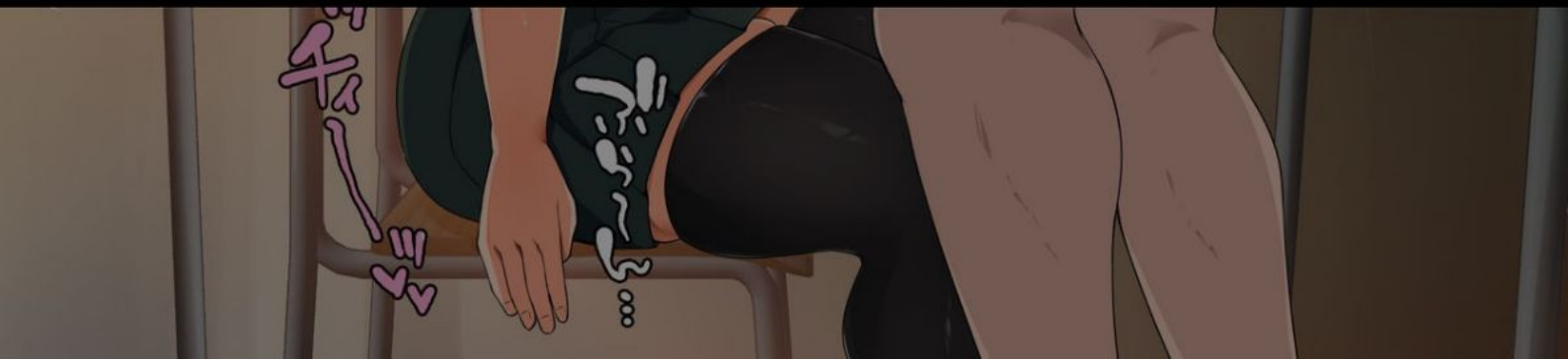
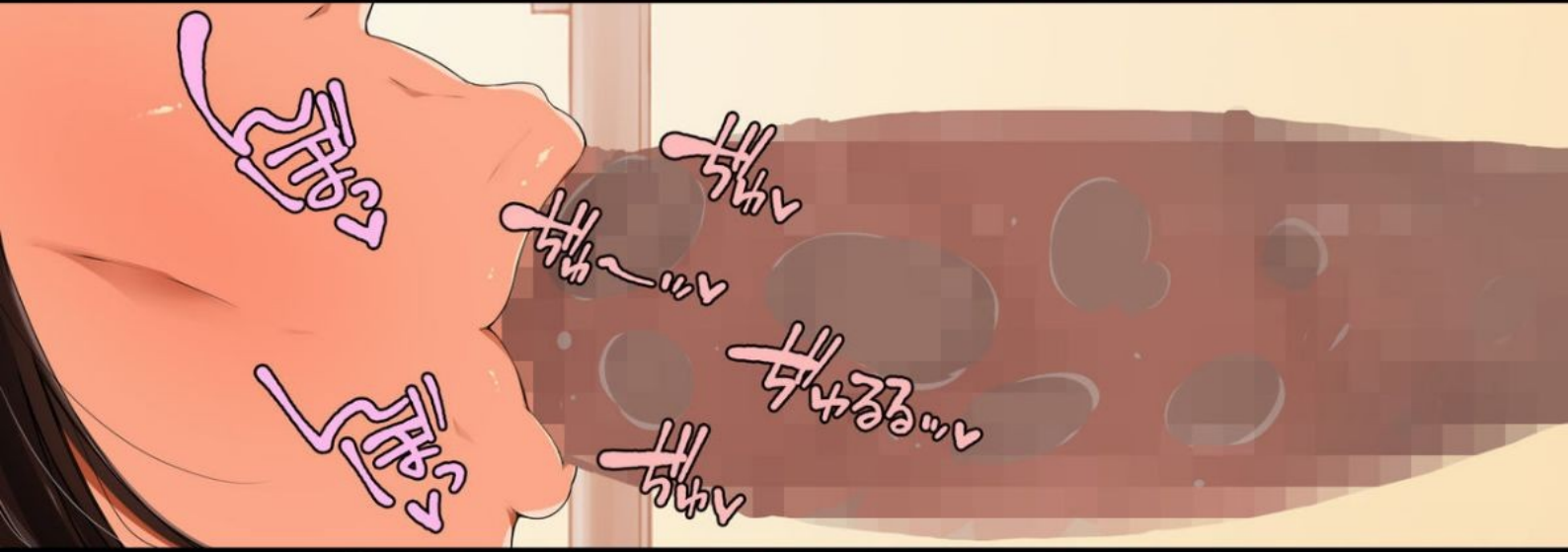






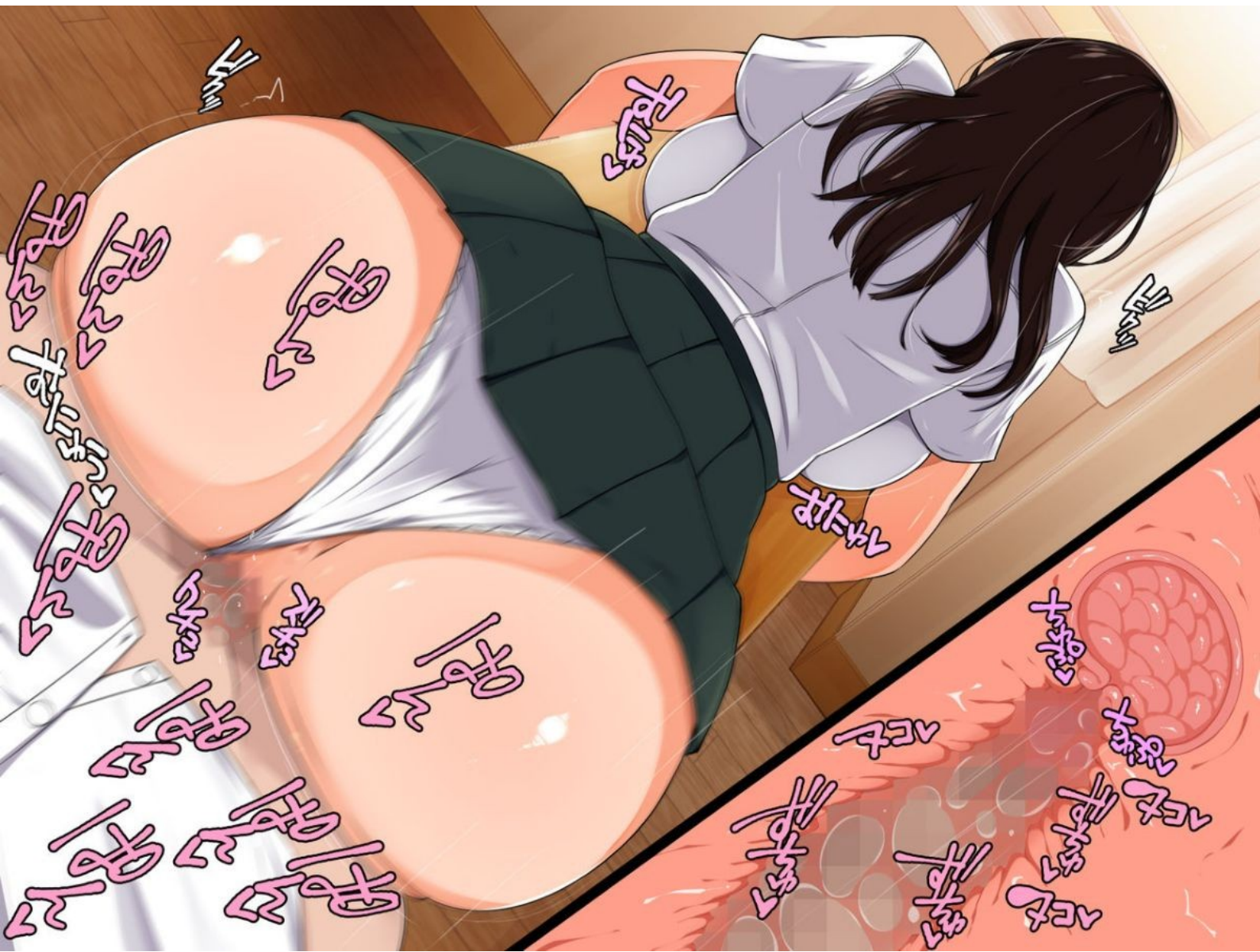


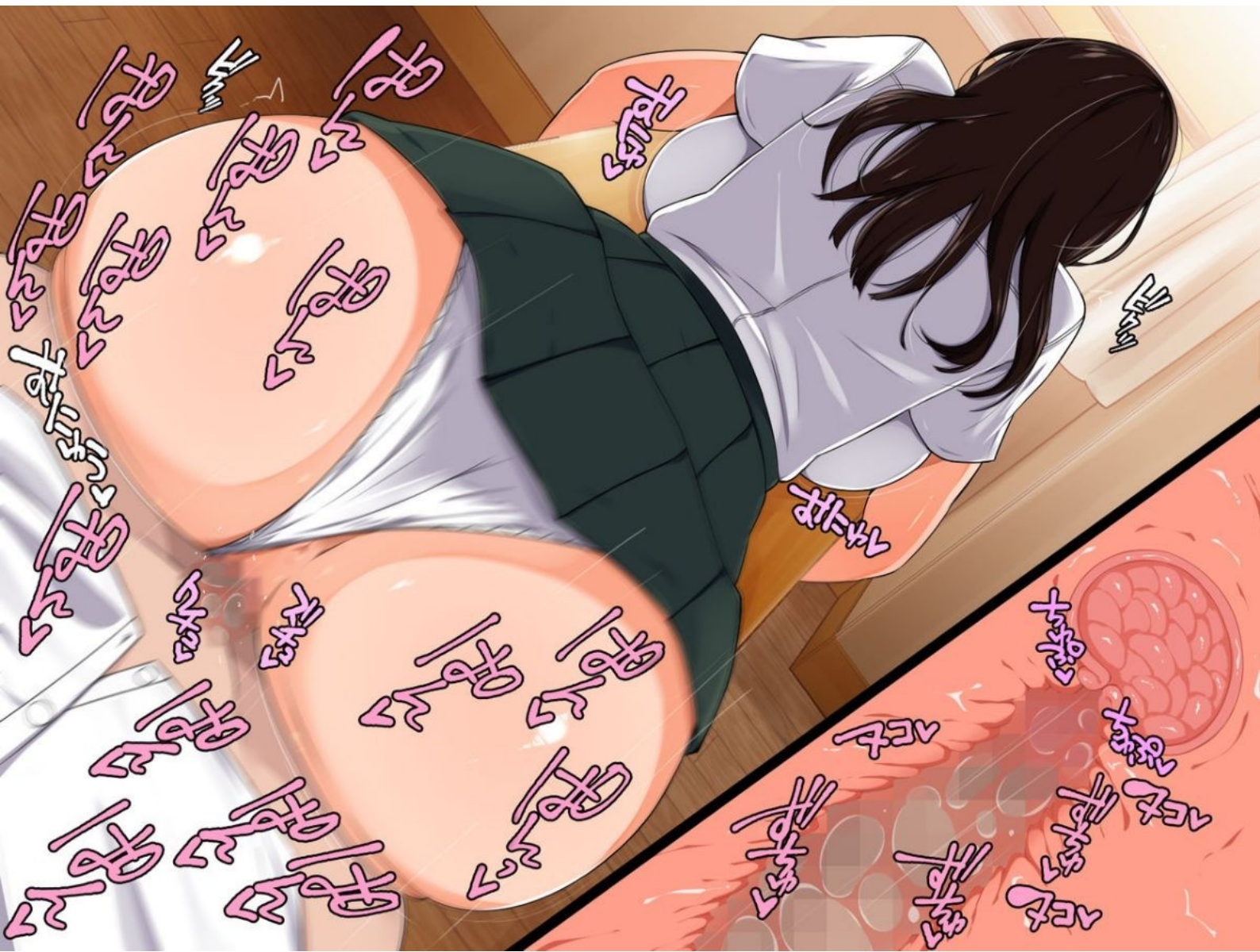


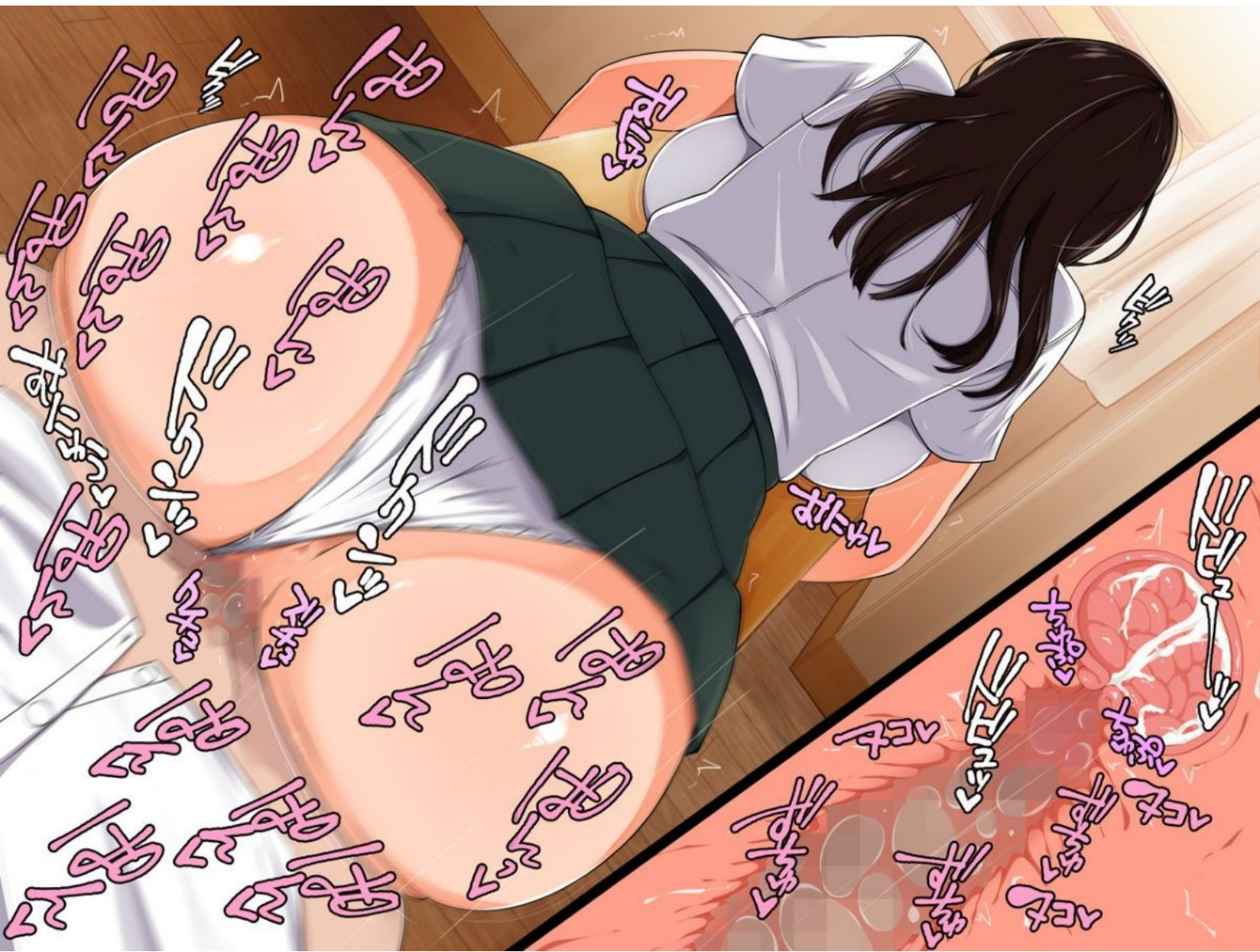














あはれ

あはれ

ははれははれ

あはれ

ははれ

あはれ

あはれ



あははは

あははは

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは

あはは







あははははは...

あははははは
はははは

あははは

はははは

あははははは...

あははははは
はははは

あははははは

あははははは...

あはは

あははははは
はははははは

あはは

あはは

あはは



Handwritten annotations in pink and white, including characters like 'あはれ' (Ahare) and 'はげ' (Hage), with arrows pointing to the upper buttocks and thighs.

あはれ (Ahare) - Handwritten in pink, pointing to the left buttock.

はげ... (Hage...) - Handwritten in white, pointing to the right buttock.

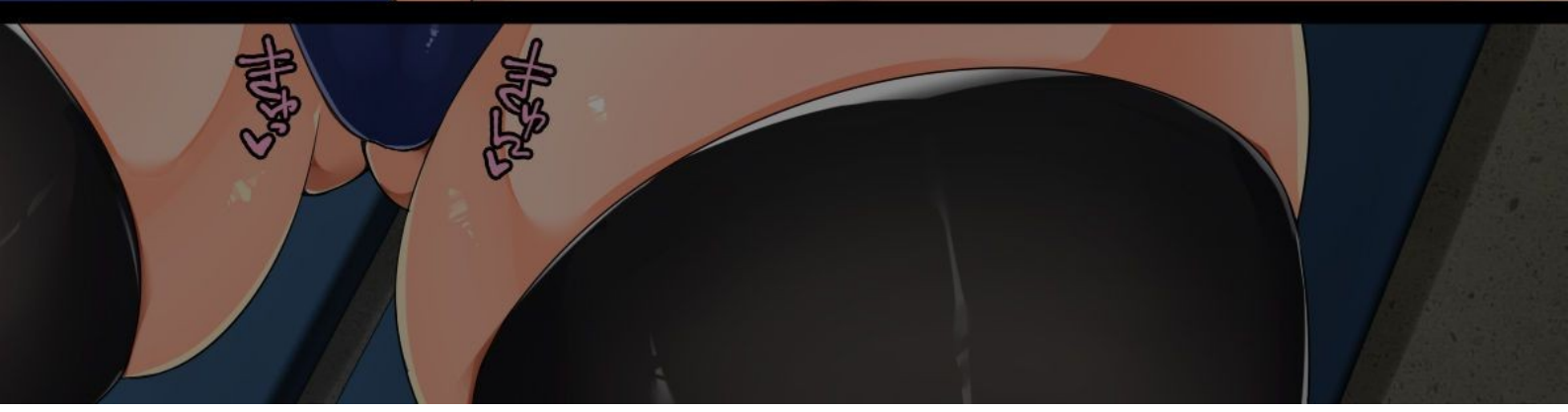
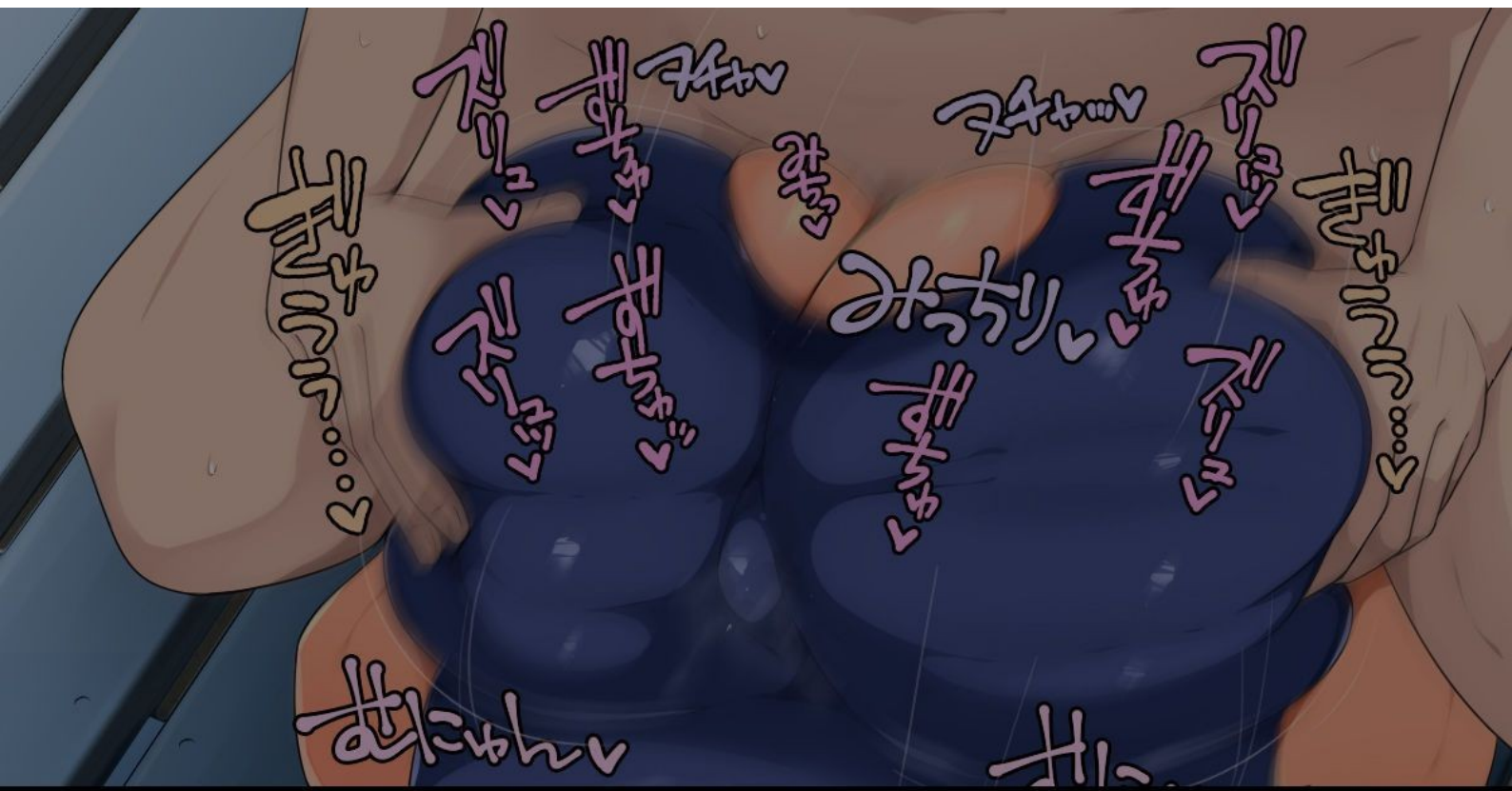
あはれ (Ahare) - Handwritten in pink, pointing to the left thigh.

あはれ (Ahare) - Handwritten in white, pointing to the right thigh.

あはれ (Ahare) - Large handwritten text in pink, oriented vertically on the right side of the image.

あはれ (Ahare) - Handwritten in pink, pointing to the left thigh.

あはれ (Ahare) - Handwritten in pink, pointing to the right thigh.





お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

お尻の中心...>

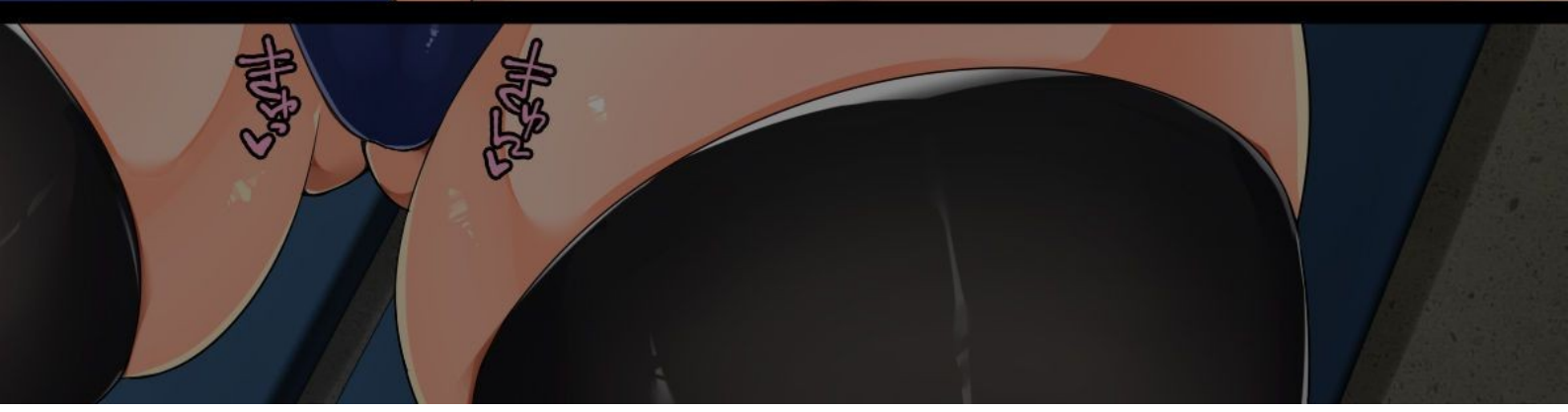
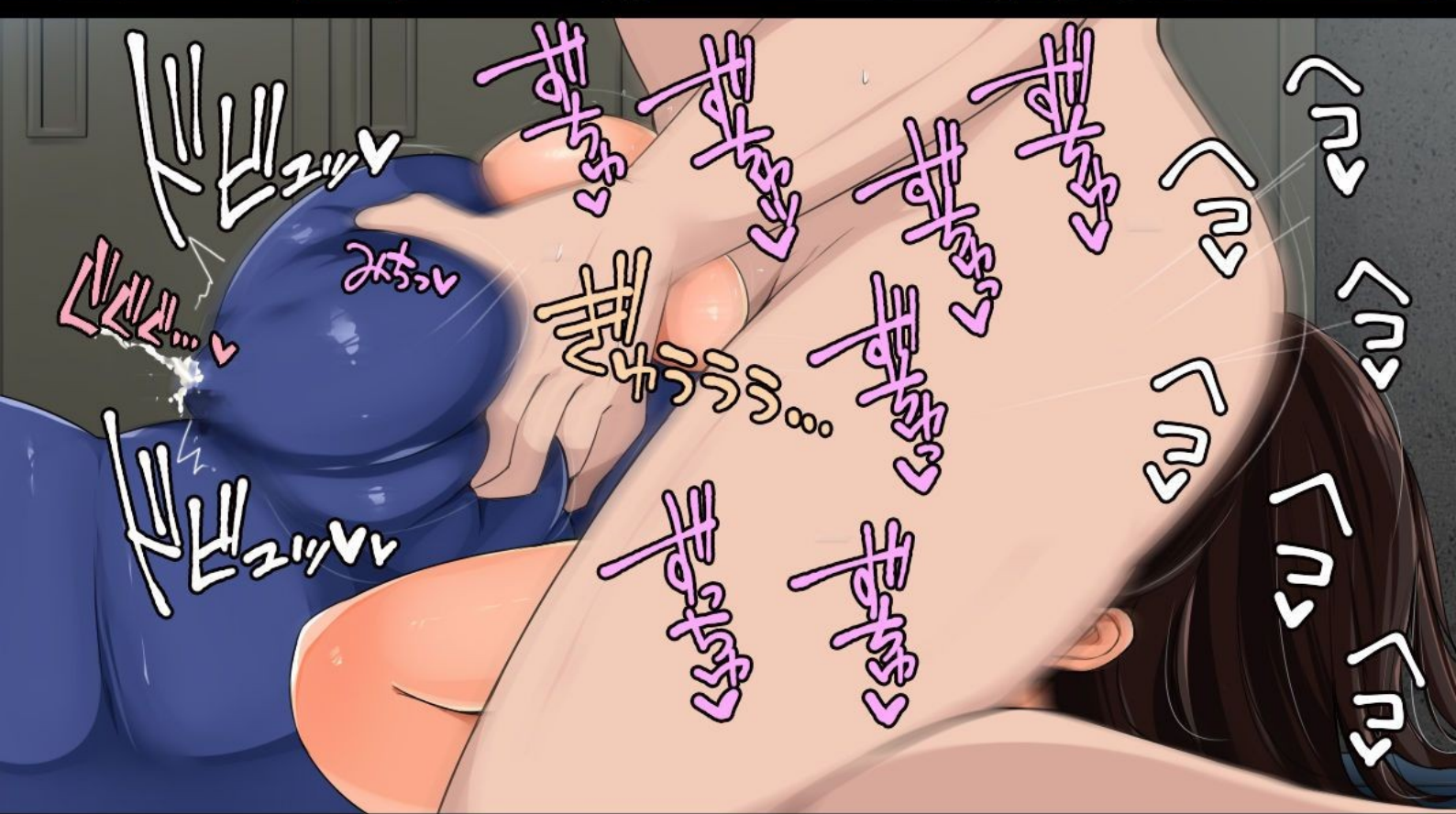
お股の中心...>

お股の中心...>

お股の中心...>

お股の中心...>

お股の中心...>



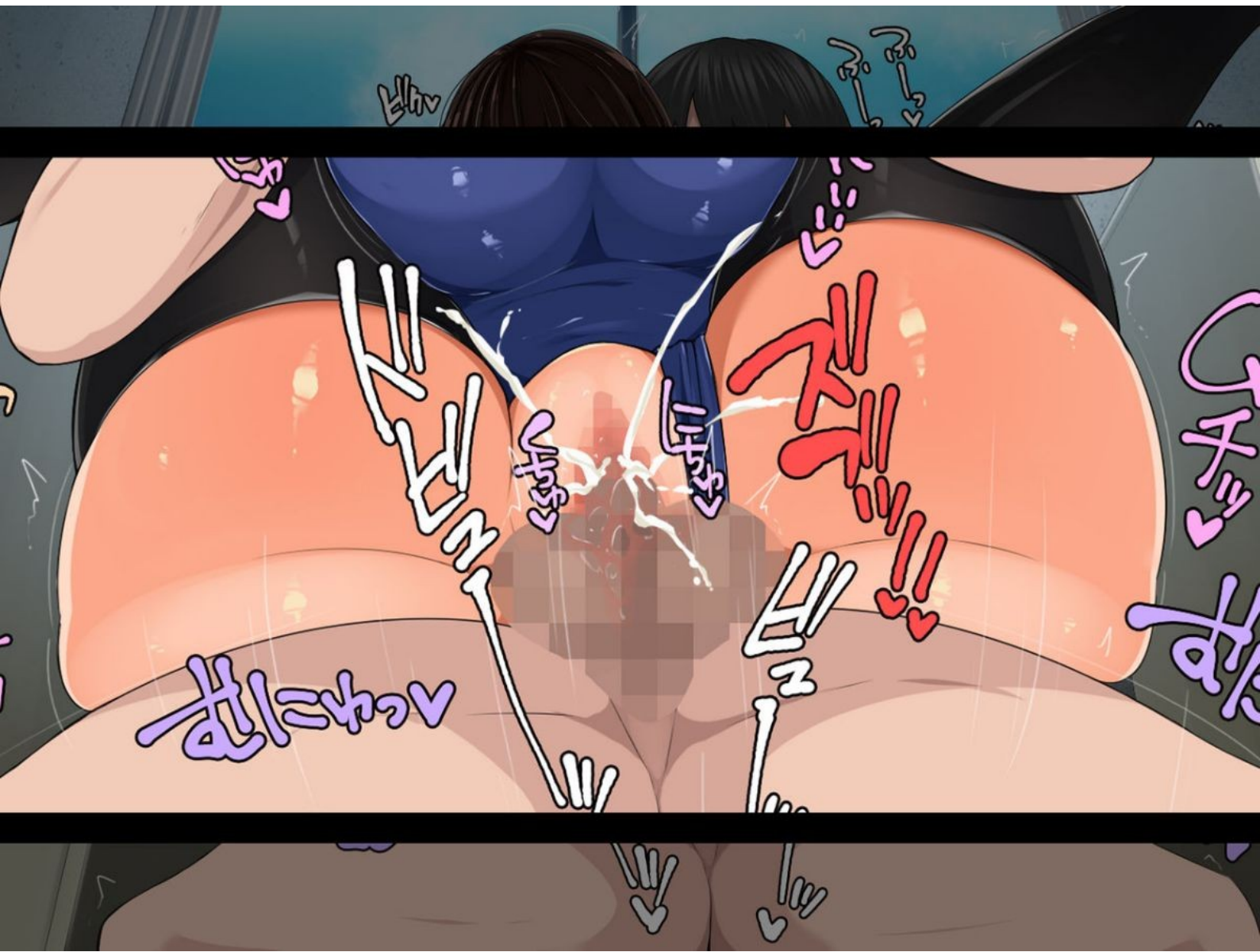














んんん

ふんふん

んんん

ふんふん

ふんふん

ふんふん

ふんふん

ふんふん

んんん

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん
ぽんぽん

ぽんぽん
ぽんぽん

ぽんぽん
ぽんぽん
ぽんぽん



